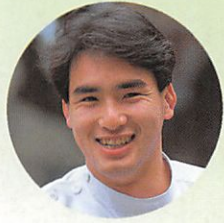


ZOOM UP



1996.No.94



医・歯界展望

秩父山地から関東平野に広がるその分岐点を示すように走る八高線。埼玉医科大学はそのほぼ中間にあたる毛呂(もろ)駅前に、地下2階、地上13階という巨大な姿を見せて建っていた。現在病床数1,483床、外来患者は1日およそ2,500人と云われるだけあって、待合室は座る場所にも困る程、患者さんで溢れていた。

通された本部棟2階にある学長室。石田学長は写真でもおわかりのように当年80才とはとても思えない程の若々しさ。お話しも理路整然。誠実に人生を歩まれて来られた道程を感じさせる学長である。

「当校の発祥は明治25年、現理事長である丸木清浩氏の祖父にあたる丸木清太郎氏



埼玉医科大学 学長

石田正統

●略歴

大正 5年 2月 東京・本郷に生まれる
昭和16年 3月 東京帝国大学(現・東京大学)卒業
昭和16年 9月 海軍軍医中尉任官
昭和20年 9月 予備役となり、東京帝国大学医学部復讐助手
昭和32年 4月 東京大学講師(木本外科)
昭和38年 7月 米国出張 フィラデルフィア、ピッツバーグ小児病院
昭和40年 5月 東京大学助教授(第二外科)
昭和40年10月 厚生技官(国立小児病院医長)併任(41年4月迄)
昭和46年 4月 東京大学第二外科学講座教授
昭和48年 4月 東京大学医学部附属病院長・評議員(2年)
昭和52年 4月 昭和大学医学部外科学教授
昭和53年 7月 東京船員保険病院院長(63年9月迄)
平成 2年 8月 埼玉医科大学学長

がこの地に病院を開設されたことに始まります。その後社会福祉法人に移行し、主に精神病の治療を中心に発展。特に当時は不治の病とされた肺結核にかかった患者さんでも収容、治療をする、日本で唯一の病院でした。私は当時、昭和33年頃でしたか、東大で肺結核の外科治療に関係していたことからこの病院を知り、個人的に行き来をしておりました。その頃はこの辺り一帯はまだ原野というイメージで、訪れるのも大変でしたが、今では交通の便もよくなり、緑濃い自然の中で、学ぶには絶好の環境下にあると自負しております。「当病院が総合病院へと拡大されたキッカケは、往時ご存知かと思いますが、八高線でその頃世界一の死傷者を出したと云われる突発的な転覆大事故が起こり(昭和22年)、この病院に収容されたのですが、充分な手当も出来なかったことから、それに耐えられる病院を、との理事長の願いからその後内科・外科その他を加え、一般病院へと発展して参りました」。

大学の設立は昭和47年。現在学生数はおよそ600名。大学本部のある当地の他に、川越市に総合医療センター(800床)を有し、救命救急病院として、諸機能が集中管理をする都市型を代表する近代的な病院を10年前に設置されている。

——新カリキュラムの構成については? 「本学は以前から教養課程を進学課程と呼んでおりますが、カリキュラムの改定にあたって、平成3年より6年一貫教育をということから進学課程を2年から1年に短縮し、専門課程を1年増やしました。又、内容も特に必要な講義のほかは、1クラス10~15人位できめ細かな教育を施すようにしました。ただ私自身の感想ですが、将来巾広い知識が必要とされる医師という職業柄、若い時期に学ぶべき教養課程が1年に短縮されたことには正直少々残念な気がしております。医学以外のものを身につけるには若い程良いと思うからです」。現在川越総合医療センターを含め、教授83名、助教授67名、講師121名、助手480名の計751名と学生数よりも多い陣容。中味の濃い医学教育をされている証でもあろう。

お生まれは東京・本郷。開業医をされていたお父様の影響から当然のごとく医学部に? 「いえいえ、父親をみていて医者嫌だと思

っていたんですよ(笑)。でも戦争も烈しくなるし、周囲の状況から医学部へと。卒後は軍医試験を受けて軍艦に乗り4年間過ごしました。「海軍兵学校の教官をしていた頃、江田島から原爆を見たんです。当時、島から広島に出掛けていた住民もあり、帰って来たその人達を診たんですが、白血球がほとんどなく、その原因がわからず困ったことを覚えています」と往時をふり返って。

——ところで学長自身の歯のご様子は? 「私は小学生の頃から歯医者に通ってまして、今では入れ歯も相当数あります。主に当校の口腔外科の先生に診てもらっておりますが、私自身も戦前教わりました恩師である都築教授が口腔外科の専門であったことから、その手術を見たり聞いたりして学びました。医学と歯学、現在は2つに分かれておりますが、補綴物を作る以外はもう全く同一と考えてよいのではないのでしょうか。高齢化社会に入り、入院患者もですが、在宅患者の場合等も食べられなくなるとボケ症状も早くなると云われております。汚れた口腔内を医者が気づいてやりませんと、本人は言わないんですね。医科・歯科と連携を持ちながら患者の健康を守ることが大切で、その間に線を引くのは社会的に見て“どうかナ”と思いますね。私も小学生の頃、歯医者さんに行き、歯の治療の他に、手についた傷などを消毒してくれた思い出が今でもあります。患者さんサイドから見て医者が違うというのはチョットおかしいですよ」。歴史的な成り立ちを考えれば…。経緯は違うが、現在では…。学長のおっしゃる通りである。

——巣立って行く医学生に言われることは? 「昔は、医者は地域の中で、物知り、常識人として住民に頼られる存在だったんです。でも近頃は、法律も経済もよくわからない世間知らずの人間と云われております。ですから巣立って行く医学生には、とにかく医学書以外の本も出来るだけ多く読み、人間としての巾広い知識を身につけるように、と言っています。診療にあたっては、個人の背景や環境を考え治療にあたること。特に末期癌のケースなど、医師の対応をいかにするか。難しいですが…。医者とは本来そうした職業であると思っております」。

どんな質問にも誠意を持って一言一言丁寧に答えられる。折り目正しく、年齢を感じさせない爽やかな印象が残る学長である。

私と長崎大学歯学部

歯学部長
加藤伊八



■プロフィール

昭和 9年 7月 愛知県・西尾市に生まれる
昭和37年 3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
昭和43年 3月 東北大学歯学部附属病院講師
昭和51年12月 歯学博士
昭和52年 1月 東北大学歯学部助教授
昭和53年 4月 東京医科歯科大学歯学部助教授
昭和57年 4月 長崎大学歯学部教授
昭和60年10月 長崎大学評議員(62年9月まで)
平成 元年 8月 長崎大学歯学部附属病院院長(5年8月まで)
平成 5年10月 長崎大学歯学部長 現在に至る

起伏が多く、日々暮らす住民にとっては大変な面も多いであろうが、訪れる観光客にはこれほどロマンや情緒を感じさせる街は全国でも少ない。

長崎大学歯学部も浦上天堂にほど近い風光明媚な丘の上に、医学部と併設されて建っている。

創設は昭和54年10月。歯学部としては最も新しい大学の一つである。それだけにどこかのびのびと明るい雰囲気を感じさせるのは気のせいばかりではない様だ。

歯学部附属病院に続いた本館2階の歯学部長室にお訪ねした加藤歯学部長も、気さくでゆったり、構えたところが全く感じられないお人柄で、思わずホッとする。

「当校は創設時には学生定員80人で出発したんですが、第一回生を送り出した直後の昭和63年には60人に削減されましたので、他大学に比べ卒業生は昨年度迄で727名と各段に少ないですね。でも大学の運営という面では厳しい面もありますが、学生にとっては、きめ細かな教育を受けられるメリットがあるわけです。不況時に入り、国の医療・福祉予算はご存知の様に年々削減され…。本学も難しい時代に入ったと実感しております」。

昭和57年、当大が附属病院を設立するにあたり東京医科歯科大学より赴任。病院長を2期務められた後、歯学部長にご就任された。初代歯学部長、佐々木元賢先生より数えて4代目である。

ご出身は、知多湾にほど近い愛知県・西尾市。「どうしても、という積極的な気持ちでこの道に入ったわけではないんですが(笑)、振り返ってみますと、案外歯科医師という職業は自分に向いていたのではないかと思いますね。開業も考えなかったわけではないんですが、何時の間にか深みに入り、現在に至っております(笑)」と、少々不謹慎とも思える心の中を正直に。愉快な学部長。学生の評判も良いことであろう。

——各大学とも新カリキュラムの構成をさ

れておられるようですが、当大学は？「2年前から、本学も授業科目を大幅に、より効率的で歯科医師としての条件を満たす内容に改革しました。中でも目玉は“早期体験”と言いますか、入学時に歯科医療の実体である臨床、研究の場を自身の目で見つめさせ、以後の学習生活に目標意識をもって進めるようにしたことです。学生は、熱心に興味をもってやっておるようですが、将来そうした体験がどの様に表れるか、評価は少し先になります。

● 地元の歯科医師会と連携を持ち、会の役員をされている臨床家の先生方に講師としてお出掛け頂き、地域医療の実際を話してもらう“地域医療概説科目”を授業の中に取り入れております。この科目は改革以前の、5～6年前よりやっておりますが、好評ですし、実績もあがっているようです」。

— 歯科医学生に望まれることは？「現在の学生は幼少時より勉強が最優先、必須として育てられて来ました。もちろんそれは大学に入り、将来への道としては大切な条件ですが、その為人間としての躰や常識が、とすればおろそかになっていることは否めません。特に将来医療に携わる人間は、患者さんの心がわかる、広い社会性を持った人間になることが必須条件です。その為当校では、課外活動に積極的に参加し、クラブ活動を通して組織の中で生活する経験を身につけるよう勧めております。人間形成として最も大切な時期・年齢に勉強ばかりでは…。ある面では教室での勉強より大切、と思うからです」。「でも私達の頃に比べ、時代の要請も高いし、従って科目数も増えましたし、大変な面も多いですね」とも。

— 当大学をPRするとすれば…「歯科大学としては最も若い大学の一つですから、良否は別にして古いシガラミが少ないので、教授陣が結束して、色々と見直しつつ、新しい教育・方向を見出す可能性のある大学であると言えます。志願者数も昨年は前期が7.2倍、後期では23倍にもなり、他学部は圧倒

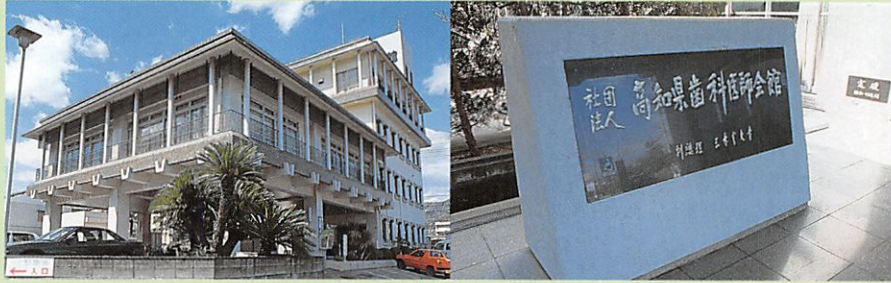


的に九州地区が多いのに、当学部だけは全国から希望者が集まって来ました。こうした傾向は卒業後、全国に友人が出来ることへとつながるわけで、学生にとっては非常に良いことだと思いますね。又、隣には医学部がありますから、多方面に亘って協力し合うことが出来、有病高齢化社会を迎えるにあたって、身体全体から診る歯科医療の勉強に役立つ良い環境下にあると言えます」。

— ご専門の保存学を選ばれた理由とその将来性については？「昔、私が学んだ頃は歯科医といえば、う蝕＝ムシ菌の治療専門と思われていたんですが、卒業前の3～4年時に歯周病学という新分野が出来たことから、それではと…。単純な理由だったんですよ（笑）。現在は材料や技術方法等、当時に比べ各段に進歩し、ほとんど治せる範囲に入りましたが、あと一歩、体系づくり等が進まず、その点は責任を感じております。将来性につきましては、高齢化社会に入り、又、日本歯科医師会が提唱する8020運動と結びつき、歯周病の治療が大きくクローズアップされて来ています。歯科医師の役目がう蝕中心から歯周病中心に。社会から求められている重要な標題ではないでしょうか。学部長就任後も時間があれば外来に出て、週7～8人の患者さんを治療されていると言われるように、臨床が好きで好きでたまらないご様子である。「ええ、学生時代の臨床実習からずっと診療にあたって来ましたから、何とか治療の時間を見つけてよと…。身につけてしまったんでしょうね。ここに座っていると雑用ばかりで…。イヤでイヤで仕方がないんですよ」と笑われる。

— 最後に歯科医師として最も大切なことは？「月並みな言葉になりますが“痛みのがわかる歯医者”ですね」とキッパリ。永年の臨床医としての経験からの結論であろう。

何時までもお話しをしていきたいと感じさせる、温かい心が伝わって来る歯学部長である。



社団法人

高知県歯科医師会

さすがは南国。駅頭に立つと、広い駐車場を囲んで青空の中にヤシの木がゆったりと辺りを見下ろし、3月初旬だというのに、早や初夏の風を思わせている。
高知県歯科医師会館は駅から車でおよそ10分。
隣りは児童交通公園、裏手に久万川、その向こうには陽光に輝く山並みが横たわり、静かな環境の中に、白い外壁をみせ堂々とした4階建の姿を見せて建っている。
会館内部をザッとご紹介すると、1階は事務室、会議室、2階は歯科技工実習室と教室、会長室、3階は講堂、4階は和室、スライド室等に使用されているようだ。
土曜日の午後から始まった定例会議。名簿を見せて頂くと、役員先生のの中には、遠く中村市から出席されておられる方もいるご様子。
しかも無報酬でボランティアに近い仕事とか。
会の発展と会員の向上を心から願わなければ出来ない役職である。
会議に先立ち、西野会長、森副会長、恒石専務理事と公衆衛生・広報に詳しい沖理事にもご出席頂き、県歯会の活動・現況、又将来について語って頂いた。

- 会 長／西野 恭正
- 副 会 長／森 英洋
- 副 会 長／高橋昭二郎
- 専務理事／恒石 定男
- 常務理事／山崎 敏朗
- 常務理事／金子 盛俊
- 常務理事／織田 英正
- 常務理事／友永 泰弘
- 理 事／本田 常晴
- 理 事／楠目精之郎
- 理 事／福島 善彦
- 理 事／窪 盛偉
- 理 事／高島 恭一
- 理 事／栗山 治義
- 理 事／田岡 謙
- 理 事／沖 義一
- 理 事／仙頭誠一郎
- 理 事／岡林 健二
- 監 事／秋山 元康
- 監 事／国藤 邦彦
- 監 事／青木 博幸



会長

西野 恭正



会長：現在当県の会員数は386名で県民人口およそ81万人をカバーしております。単純に人口比率で割ればまだ比較的余裕があるように思えますが、ご存知のように四国山地が急激に土佐湾に落ちる、

その海岸線に沿って町々がつくられておりますので、市街地は過剰状態。例えば高知市は人口32万人に対し会員は180名です。現在も県下53市町村の内、人口5,000人未満が半分以上あり、いまだ巡回診療車を必要とするところが、減って来ているとは言ものの17ヶ所もあるのです。山間と海辺、食べ物さえも違ひまして、一率にいかんところが難しいです。すね(笑)。

県民性は、昔から言われるように男には“いごっそう”(良く言えば少々直情的であるが真つすぐ進む純粋で男性的性格。悪く言えば人の意見も聞かないイジッバリ?となるらしい)、女は“ハチキン”(男まさりでやり手の女性を指す)と呼ばれる性格がいまだ残る土地柄です(笑)。そうした方々を日々診療される先生方も、私達役員を含めて苦勞が多いですよ(笑)。主だった産業も少なく、従って医

院経営も楽ではありませんから、会費も極力安く押さえねばなりません。県歯会のすべき事務量は年毎に増えますし、片手間では出来なくなりつつあります。今後はそうした課題を会員と共に考え、会の発展・向上を目指してやって行き度いと思っております。

副会長
森 英洋



森：戦後50年。日本経済は年を重ねるごとに成長・発展して来ましたが、ここ数年間に一転。厳しい状況に置かれております。歯科医療界におきましても、国の医療費の抑制や過剰問題等、決して良い時代とは言えない状況を呈しております。こうした中で、我々が住民の信頼を得るにはどのような姿勢で進んで行けば良いのか。会員の皆さんも一生懸命考えているのではないかと思います。幸い日歯が8020運動を展開しております。それを通して歯科医療の大切さを県民にPRし、いかに認識させていくか。県歯会も各事業部が責任をもって推進させる義務を感じております。子供から孫の代まで、今真剣に考え、それを実行に移さなければ、必ず当界が後悔する時が来るのではないかと思います。又、そうした活動が国民に理解されれば、当界にも優秀な人材が集まり、再び発展に向かうと信じております。本来の在るべき姿。医師としての原点。少々抽象的な言い方になりましたが、そうしたことを会員各個に一步一步ですが役員の勤めとして指導していけたら、と考えています。

理事
沖 義一



Q：公衆衛生と広報を実際的に推進させておられる沖先生。その具体的な活動状況を。

沖：先程会長の話しにもありましたように、当県は山間僻地が多く、無菌科医地区事

業も約25年前に始まり、当時は年100回出勤。年々減少したとは言え、現在も17回程出勤しております。平成6年よりリフトをつけた新しい巡回診療車が県から委託されましたので、これをモデル事業として2年間、年3回、無菌科医地区小学校2ヶ所に出動。又無菌科医地区の福祉施設にも2ヶ所、年5回。その他の無菌科医地区でない福祉施設にモデル的に今年度は6回出勤させました。

それと厚生省の推める、3つの歯科保健推進事業——①在宅寝たきり老人歯科保健事業、②8020運動の推進、③在宅心身障害者歯科保健事業ですが、前・中村公衆衛生部長の時これ等の3つの事業を初年度からすぐ始めましたのは高知県と北海道のみ。自慢できると自負しております。

①につきましては現在高知市で年間50件ぐらいの申し込みがありますから、各支部と連携を持ちながら、今後共推し進



めて行き度いと思っております。

②は、土佐市が1才6ヶ月児健診時に母親も健診。好評です所以他に普及させると同時に、その時作られた8020運動推進協議会も現在全県的な組織として活動を開始しております。

③につきましては南国市が3年間の推進事業として始め、今年で終了する予定ですが、当県には医科大学も市民病院にも口腔外科は設けられているものの、このような保健事業を進める体制がありませんので、その都度会員の先生方に出動して頂くような状況ですが、協力医の方々も心よく引き受けて下さり有り難く思っております。県内の実情が先程言いましたように人口5,000人未満の市町村割合が54.7%。これは全国平均19.8%を大きく上回っており、又、老年の人口比率も全国2位。これを逆に見れば市町村の財政基盤がそれだけ弱いということ

にもなり、これを長く推進させるためには、今後解決していかなければならない難問が多く、県歯会としても会長以下頭を悩ませております。

専務理事
恒石 定男



Q：日歯(副会長)の活動で、ほとんど地元にいる時間がとれない会長が変わって、指揮をとられる恒石先生。現状と将来の展望は?

恒石：現在県歯会は①会員の和と相互扶助②業権の確保と経営の安定、を方針として掲げております。が、先程のお話のように厳しい情勢の中会員数も少なく、又、財政基盤が弱い土地柄ゆえ、会員から多額の会費を頂くというわけにもいきません。先年K・D・Uという会員の為の

会社を作りましたので、そこから収益を上げ、今後の事業展開、又創設100周年の記念事業の資金を捻出していけたら、と思っております。他県で時々耳にする非会員の問題も、当県では1人もおらず、開業すれば全員が会員になることが出来ます。又、会員であっても勤務医の場合は会費を安くするなどの助成策を取っており、そうした点では自慢できますね。

会長：世の中の流れが総て変わっていく中であって、当界も大きく発想の転換をしなければなりません。柔軟な思考と日々の研鑽。県民は今何を我々歯科医師に求めているかを行政とその他の保健推進機関と連携を保ちつつ、今後も会の向上・発展を考えて行きたいと思います。難問を抱かえる状況下にありますが、役員一同、会員と共に一丸となって頑張っていく所存です。

久保田歯科医院

群馬県桐生市浜松町1-10-19

院長 久保田知己 副院長 久保田一見





両毛線・桐生駅からアーケードのある繁華街を抜け車でおよそ5～6分。通りから1～2分入った静かな住宅街に建つご紹介の「久保田歯科医院」。昭和46年、現医院に新築されたと言われるから、既に24年余りになる筈だが、グレーのタイル貼りに大きな窓を取った3階建の建物は、全く歳月を感じさせない。竣工当時は、おそらく斬新な建物として周辺の注目を浴びたことであろう。1階は診療室、2階は院長室、医局員室、レントゲン室等に、3階は各種の研修や趣味のコーナーとして多目的に使用されているようだ。

玄関を入るとまず目に飛びこんで来るのは、足利出身の有名な書家・相田みつを氏の直筆の額。「あとにもさきにも、かけがえのない、たったひとつのいのちゆえ、あす知れぬ、はかないいのちゆえ、きょうのいのちをすずかにおもう」と医院にはピッタリの言葉が書かれている。

待合室は薄紫の床に、座り心地が良さそうな黒のソファが7脚と大理石のテーブル。天井・壁は絞り模様の入ったベージュ色。室中央からやや左手の縦長に採られた通路・受付から診療室内へ。

受付後方から平行に2台のユニット。濃淡グレーのファイン<GM>L型が設置されている。背面キャビネットとそれに続いて更に1台、ガラス入りのセパレーションに囲まれ置かれている。後ほど院長のお話にも出て来るが、戦後20年代に学校を卒業された各医院の院長が、そろそろリタイアの時期を迎え、ご子息に跡を継がせようと主診室を譲り、自分専用別に1室作る事が多いので、テキキ当院も、と思っただが、こちらは逆。まだまだ中広い勉

強をしたい、と言われるが副院長が、時々帰られ診療にあたられるユニットである、とのこと。

院長ご夫妻の寛容さと、日本の医療の先行きを見通した、先見性を見る思いだ。

医院に入ってからずっと感じていたことであるが、室内のアチコチに飾られている名画。素晴らしいの一言に尽きるが、もし本物なら、ん百万円。まさか！。斉藤三郎(フラメンコ)、福沢一郎(ケンタウロス)、小松崎邦雄(エンゼル)、土井邦見(薔薇)、プハルテ(母子像)等々。お聞きした奥様から原画と言われ驚ろかされた。盗難にあつたら、と下賤な身には、いらぬ心配が頭をよぎる。しかも患者さんの安らぎと室の雰囲気を変えるため定期的に掛け替えられるとのこと。うーん、と言ったきり…、次の言葉が出て来ない。

話しは飛んだが…。院長は昭和26年日本歯科大学をご卒業。卒後は2年ほど丹羽教授のもとで研修を積み、その後勤務医を。昭和29年、生まれ故郷である此処桐生市に戻り開業。以来42年、その間、県歯科医師会専務理事、地元桐生市歯科医師会会長等々、県・市の役職に20年余りご貢献・活躍された方。地元の先生方にも厚い信頼を得ていることであろう。

副院長である一見先生。取材時にはあいにく不在であったが、東京歯科大学を卒業され、同大学院小児歯科学講座に在籍中に、院長のお話によると“トランク一つもって、相談もしないでいってしまった(笑)”という言葉になるが、ニューヨーク大学大学院にて小児歯科学並びに歯科理工学を、5年間勉強され、帰国後は今号の表紙でもある長崎大学歯学

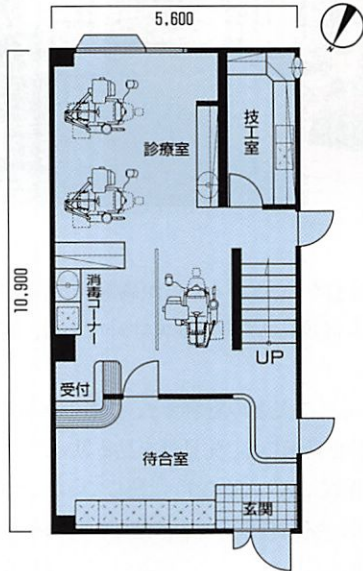
部小児歯科学講座に3年間勤務。現在は神奈川県立こども医療センターで障害者の診療にあたられている様子。ご両親の心の中はともかく、国際人としての教養・知識・技術を兼ねそなえた、これからの歯科医療界にはなくてはならぬ歯科医師に育ちつつあることは確か。機会があつたらぜひ、特に若い方々にお知らせしたい先生である。

又、当院長の奥様は、旧日本女子衛生短期大学をご卒業された方で、群馬県歯科衛生士会長を6年勤められた、衛生士の草分けであると同時に、衛生士学校の設立やその向上にご貢献、活躍された方。

先述の院長のご経歴と共にご夫妻揃って歯科医療界一筋に歩まれている医院である。

Q：歯科医師として歩まれた人生。ご感想は？

院長：うーん。親父に勧められて入った歯科大だったんですが、学生時代も、歯科医の勉強はしているが、本当に俺は将来歯医者なるのかなー、といつも思っていたんですよ。周りの仲間も、音楽や絵画など好きなことをやっているし、自分も勉強よりその方がたのしかつたしで(笑)。当時の日歯大の学長(中原実氏)が若い頃フランスで勉強したり、絵画の造詣に深い方でしたので、そうした自由な雰囲気大学全体にあつたんでしょね。英・独語と共に仏語も科目にあつたんですよ。今では考えられないでしょうが、のんびり、たのしい学生生活だった、という



思いが強いですね。でも、卒後そうした趣味が仕事をしていても、平行して出来たということは、歯科医という生活の基盤があったからこそで…。歩んだ人生には悔いはありませんね。

Q：県・市の役職を長年されて。若い先生方からどのような相談を主に受けられますか？

院長：今も会の医事対策委員長をやっておりますが、やはりご存知のように歯科医院の過剰から来る経営や保険点数の問題についてですね。ちょっと前までは、一生懸命診療に励んでいれば経営は安泰だったんですが、今はそれでも苦しい。日本の医療が大きくなり過ぎたと国も言っていますが、若い方を見ていて気の毒だなー、と思いますね。特に新規開業をされた若い先生方からの相談が多いですね。

Q：ご子息に望まれることは？

院長：とにかく歯科医師として自身の心に素直に生きて欲しい、と思いますね。確かに心のある部分では、帰って跡を継いでくれれば私自身楽だし、安心という気持ちもありますが、息子なりの生き方・道がありますから、どうしてもとは思っていませんね。

Q：衛生士会長として長年ご活躍された奥様。当院のスタッフ教育はどのように？

奥様：普段私は診療室には出ておりません

が、会主催の研修会等の出席や、6月4日の歯の衛生週間には幼稚園、小学校に当院のスタッフを派遣し、手作りチャートによる衛生士の講話を30年間続けております。そうした状況がテレビに映されますので、衛生士としての励みや誇り、又やりがいに繋がっているようですね。それと毎週月曜日には朝礼をやり、プロとしての訓話を全員で唱和。その後“今の診療室に貴方達は何を考えているか”

をテーマに毎週1人ずつ発表するようになっております。プロとして良い刺激を与え、伸ばすことが私達先に歩む者の役目だと思っておりますから…。

Q：オサダのファイン<GM>。ご使用感はいかがですか？

院長：オサダのユニットはジュニア、ユニオート、それとこのファインGMで、開業以来3回目の入れ替えになります。地元の山岸歯科商店さんがオサダさんとの連携で、永年非常に良く面倒な相談にも乗ってくれますし、アフターも万全で…。無事やって来られたのもそのお蔭と感謝しております。

奥様：GMは一昨年改装時に入れたんですが、私はその前にあったユニオートに深い思い出がありますね。私達人生の最も働ける時期に、共に頑張ってくれましたので…。最後にトラックに積み込まれた時には思わず涙が出てしまいました。丈夫で長持ちする機械を作ってくれるオサダさん。山岸さんの暖かいお人柄。歩んだ人生は良い人達ばかりに恵まれ、幸せだったとしみじみ感じております。



すぎ歯科医院

香川県善通寺市中村町1193-5

院長 杉本照幸



小児歯科
すぎ歯科医院
院長 杉本照幸
12:30-19:00-6:30
日・祝祭日・木曜日
7-63-6480



市街地より丸亀市方面に向かっておよそ2 Km。高速道路が開通したことから、周辺は田畑が埋め立てられ、急速に新しい郊外住宅地へと変貌しているようだ。

ご紹介の「すぎ歯科医院」もそうした新田が入り交じる住宅街の角地に建っていた。

前面はおよそ7~8台可能と思われる駐車場。道路に立つと、入口を挟んで待合室から続く診療室が素通しガラスを通して一望でき、見るからに気持ち良さそうな医院だな、と思わせる。

外壁はページュのタイル貼り。屋根は黒。玄関上部の屋根はアール状に作られ、モダンな作りの中にも医院らしい和らかなイメージを与えている。

入口から風除室、更に玄関ドアを押して待合室に。

待合室の床は薄紫のカーペット。1人掛のアイボリーの椅子が11脚ほど並んでいるが、入った途端になぜか広々、開放的なイメージがするのは、高い片流れの天井のせいかな？。とにかく気持ちいい。

中央に曇りを入れたガラスのドアを押して診療室へ。

床は淡いグリーン。大きめの出窓、それに沿って、グレーと黄のツートンカラーのスマイリー<ノーベル>L型がパーティションに区切られ3台並んでいる。

院長は平成元年九州歯科大学をご卒業。卒後は1年程同大の補綴科で研修。その後愛媛県で3年、丸亀市で1年半ほど勤務医を経験。一昨年10月、此処生まれ育った善通寺に戻り、開業に踏み切られた。



若さ溢れる院長に明るいスタッフ。開業もない郊外医院であるが、患者さんにも恵まれ、順調なスタートのようである。

Q:この道に進まれた動機は？

院長:手先を使ってコツコツやるのが好きで、本当は画家になりたかったんですが、絵で食べていくのは難しいし…。高校の卒業間近になって、やっと歯科医になってみようと思いましたが…。でも思っていたより体力のいる仕事ですね。

Q:患者数は？

院長:1時間4人とみて、1日8時間で32人が限度と考えているんですが、急患や新患があったりで、昨年50人ほど診たらヘタバッタ(笑)。

Q:患者層は？

院長:午前中は近くのお年寄りや主婦の方。午後は子供達。夕方からは勤めの終わったサラリーマンが多いですね。

Q:この辺はまだ歯科医院が少ないのですか？

院長:近々開業されるという話も聞きますが、今のところ半径1キロ以内には全くありません。私が開業するまではお年寄りの方は市内まで通っていたようなのですが、車の運転も出来ず不自由されていた様です。開院の日にはそうした方々に大歓迎されて(笑)…。医院に来たら花輪がズラリ、びっくりさせられました(笑)。生

まれ育った土地ですが、恵まれたスタートで皆さんには感謝しております。

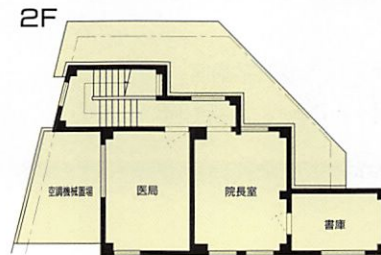
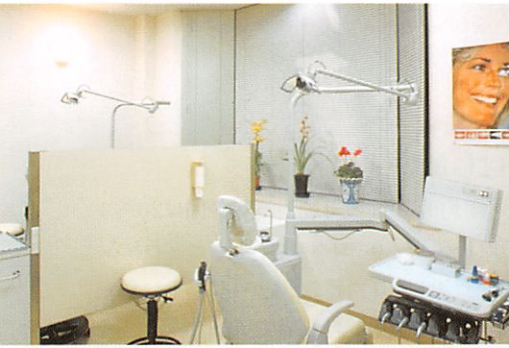
Q:診療室を建てられるにあたってご留意された点は？

院長:宅地用として整備された1区画50坪の土地を3区画買い、親戚の設計士さんに依頼して建てました。私は素人ですので、詳しいことはわからず、ズーム・アップをはじめ他の雑誌等を見て、こんな感じに、と言ったくらいで、ほとんどまかせました。出来上がってからの使用感は、ユニットの背面があと50cm位あったら、もっと良かったなと思いますが…。特別不満なところはありますか？あれでもスモークが入っているんですよ。そんなに内部がよく見えますか？じゃあ、もっと掃除をよくしておこなきゃ(笑)。

Q:ご自身とスタッフの勉強については？

院長:私は専門雑誌を読んだり、会主催の講習会に出席したりしておりますが、そろそろ落ち着きましたので、スタディ・グループに入り矯正とインプラントを主に勉強しようかな、と思っております。勤務医時代、愛媛県の先生にはインプラント等の技術、丸亀の先生には経営のハウツウを学びました。お2人共それぞれ違った意味で立派な先生で、いま非常に役立ち、感謝しております。

スタッフは現在4人。3人は衛生士で、うち2人はいずれも9年のキャリアの持ち主で、歯科医院の流れをすべて掴んでおりますし、もう一人は経験は少ないのですが子供やお年寄りのケアが上手。



受付の女の子は専門学校の秘書科を出ていますので安心して仕事を任せられます。今まで特別に教育はしていませんがみんな優秀で助かっています。

Q：日々の診療。どのような方針で？

院長：応対については、患者さんとのコミュニケーション。なるべく多く話し、リラックスした気持ちで診療に入ってもらうこと。帰り際には、必ず一言。にこやかな顔をして帰られるかどうかを見るようにしております。勤務医時代、院長からよく教えられましたから、それはしっかり実行しております(笑)。診療については、まず患者さんの主訴を治し、その後レントゲン写真等を見せて、自身の口腔全体の状態をよく説明、把握してもらうようにしています。2回目以降は、大ざっぱですが、治療の方針・計画を立てその計画に沿って行くようにしています。やはり一番大切なのは、自分が歯科医院に行った場合、何を望むか、応対も治療も納得でき、気持ち良く診療を受けたいですから…。それをモットーに診療をやるよう心掛けています。

Q：オサダのスマイリー<ノーベル>ユニットをご使用頂いておりますが、何故？

院長：一つは、ノーベルが洗練されたイメージ

で、各部の使い勝手も非常に良かったからです。もう一つは、オサダのカラーと言うのですか、会う方がどなたも気持ち良く接してくれて、話しをしていてもたのしい。すぐれた製品を良い人柄で売る。これが何たって一番ですよ(笑)。

Q：将来は？

院長：これも勤務医時代よく言われましたが“男なら夢を持って”と。確かにいま満足してしまったら、50才になっても同じですよ。内容はむろんですが、規模も大きくしたいですね。その為ユニットも7台設置できるように配管してあります。治療内

容も、もちろん自身が100%満足出来ることを目指すことが大切ですが、患者さんの希望で80%にしなければならないことは往々にしてあります。その状況の中で、最も良いと思われる診療を今後も続けていきたい。そう思っております。

Q：友人、知人の皆さんに何か。

院長：体はキツイし、借金も多いが、俺は負けないゾー、は友達に(笑)。先輩には——皆さんの暖かい指導があったからこそ、無事開業することが出来ました。心から感謝しております、とお伝え下さい。最後に、常にアドバイス・援助をいただく両親には特にありがたく思っています。



Z O O M 飛 C L O S E - U P



松島悌二先生 の巻

広島市中区吉島町1-12

(社)広島県歯科医師会会長

「アイデア会長」として、ともしれば閉鎖的になる歯科医師会に風穴をあけ、地域住民と歯科医師の融合に30年余力を注いで来られた松島会長。ご本人は“もう歳ですから”と言われるが、明日も朝10時から市の教育委員会議、午後は県知事による表彰式に出席、夕方からは県警察本部長と打合せ、と日歯副会長の役職を退いてからも東奔西走の毎日を過ごされているご様子。

今回は後を継がれた日歯副会長と高知県歯科医師会会長を兼務される西野恭正先生のリレーにより、全国的に知られる広島県歯科医師会会長の松島悌二先生にご登場頂きました。

通された会議室には初代会長である富永先生から始まり歴代13人の会長の顔写真が油絵により掲げられてある。その前には昨年11月歯科医療を通して、永年寝たきりのお年寄りや身体障害者への奉仕活動に貢献された証として、日本顕彰会から受けた表彰状が飾られてある。おそらく全国の歯科医師会では初めての受賞であろう。まさに会長の歩まれた道の集大成である。

お生まれは、広島県北部の口和町。曾祖父様は庄屋、お父様は村長をされていた地域の名家。幼少時ムシ歯に悩まされ、歯の治療も歩いて山越えをする三次市まで行かねばならなかったことから、大阪歯科医専へと進む。昭和23年同校を卒業後、関西で勤務医を3年程経験、26年に此処広島に戻られご開業。「戦争末期の19年に大学に入ったものですから、食物がないことに加え、毎日焼け跡や風水害の整備をやらされた思い出がありますね。でも、当時は皆さん元気で明るかったですよ。私も野球部のレギュラーでショート。全国専門学校野球大会が大阪・藤井寺球場で開かれたんですが、大阪代表として元大毎の荒巻選手と共に出場しまし



た」。今では考えられない様なお話である。

「原爆が投下された時(20年8月6日)、私は7月31日に村上(勝氏・現日歯副会長)君と共に当市を発っていたんです。もし一週間伸ばしていたら…。多くの友人、親戚を亡くしました」。そうした思いが“原爆ドームの世界遺産化をすすめる会”へと自らをかき立て、指定へと導いたのであろう。外見は華奢で、お話しぶりも紳士然としているが、「私は後をふり向くことはキライ。一つのことを考え、道をつければ若い人にまかせ、次のことを考え進むことが好きですね」と言われるように、内に秘めた情熱はすごい一言に尽きる。そうした言動が会長の役職に5選、14年の長きに亘って信頼されているのであろう。歯の110番として歯科医師問題が取り沙汰された時にも、患者さんからの苦情があれば、カルテを持って来てもらって、苦情の出た歯科医師か

らマンツーマンで事情を聞かれたという。「歯科医というライセンスが同じだけに苦しい立場にあったが、歯科医師全体が県民の信頼を得るために避けては通れない」と、通常なら避けたいことにも身を呈して尽くされたようだ。周りから“会長はゴロ合わせばかりやっている”と笑って言われるが、日歯の提唱される8020運動の中間目標として、平成5年5月25日にスタートさせた55才で25本の歯を残す「5525運動(ゴーゴーニーゴー運動)」は日本中の歯科医師に知れ渡ったが、今度は8月24日を「歯に良い料理コンクール」と称し、県民の方々から自慢の料理を募集。食物を通してお母様方に歯の大切さを再認識させ

ると同時に、歯科医療を身近に感じ、理解させよう、というご心境らしい。

— 歯科医師会の活動と共に今度は教育委員会の活動にと申広く市・県民に奉仕されているご様子ですが、「偏差値教育一辺倒の世の中であって、親の気持ちもわからないではありませんが、やはり小さな頃から一室を与え、子供を孤立化させてしまう現代の風潮には問題がありますね。礼に始まり礼に終わる、と言われる、剣道の極意ではありませんが、当会ではどんな会議でも、初めに全員が起立し“こんにちわ”、終われば“ご苦勞様でした”と挨拶するようにしております。礼儀を尊ぶ中でお互いの信頼感が得られると思うからです」と、人として生きるための基本を。

— 歯科医師の過剰問題については「地元には歯科大学を持つ県はどうしても増える傾向にあり、当県でも広大卒業生が既に180名余おりますが、私は、折角一生懸命勉強して来たのだから開業させてやりなさい、と言います。会として会員が多くなればパワーも大きくなりますし、時代の流れに沿った若い人達の意見や考え方が反映される。今後の歯科医療界に決してマイナスにはならないと思うからです。良否は色々ありますでしょうが、厚生省が保険医70才定年制を言われているように、やはり若い方が精一杯頑張り、力を発揮出来る場を提供するのも、我々先を歩む者の務めでもあると思

います」。「昭和45年、県、県教委、広島大学歯学部にも協力を求めて4者構成の県歯科衛生連絡協議会を発足させたのですが、その設立にあたり当時県庁に日参しました。暮れの25日にやっと30万円の予算を県の行政からつけてもらい、クリスマスプレゼントだと大喜びしたのが、今でも印象に残る最もうれしい思い出の一つですね」と語る。私は歯科医師性善説を絶対的に信じる人間で、と言われるが、会長自身が歩まれた人生こそ、善人でなければ成し遂げることが出来なかった道。今年古稀を迎えられるといわれるが、パワーは全開。席が暖まるのはまだ当分先のご様子である。

歯科医(ジーン・古山医)を通して見た

日米比較・あれこれ!



はじめに

この記事の取材でジーン・古山医を訪ねた日は、華氏20度位でその上強風。3月初旬というのに3日前にまた降った大雪が、半分とけて凍って、歩く人は強風でうっかりすると吹きとばされて滑りそう。2月末、華氏59度という春日和だったのに、この激しい気温の変動は一体どうしたことか…。

彼女の「ウォーターサイド・デンタル・グループ」オフィスは、私のコンド・ビル同様マンハッタンのイースト川に面して聳えるビル中に在り、私のアパートから見える。彼女のオフィスは23丁目、私のアパートは37丁目だから、川沿いに歩いて20分位だが、その日はあまりの強風に辟易して、ビルの建ち並ぶ一番街を、滑らぬようにと気を張って、ヨチヨチと歩くこととなった。

タクシーに乗ってしまえば良いのだが、こんな日はタイヤが滑って事故となりかねないし、

それに彼女のオフィス近辺の写真も撮りたかったので、運動がてら歩くことにした。

今年の米東北地帯は北海道同様年始めから大雪で、ニューヨーク市は除雪作業だけで既に1億ドル近い出費となっている。

3年程前から世界のあちこちで天候異変の声が高まっているが、これはまるで人類社会の大騒ぎを反映しているかの感じだ。イギリス、フランスのテロ爆破事件、中近東平和を脅かすイスラム過激派・ハマスの「スイサイド・ボンバー(自殺人間爆弾)」テロ活動…。

住専、薬害エイズ、オウムに気を取られればなしの日本では、「対岸の火事」的の事件だろうが、2月25日からの9日間に4回実行されたハマスのエルサレム中心爆破テロは既に60人を超える死亡者を出し、アメリカ国民の人心動揺は、相当なものだ。日本と逆の多民族国家の米国では、カトリック過激派・アイルランド共和軍(IRA)に依るロンドン爆破テロ



も、ハマスのテロ活動も、全くひと事ではない。アイルランド系、ユダヤ系、アラブ系米国民が喧々ごうごうとなり、周囲を、そして政府を巻き込んで行くからだ。

中近東の爆破テロは、特に私の気分を暗くする。30年来のエジプトの親友・知人達が偉くなって散らばり、アラブ諸国のあちこちで、主として教育・医療分野ではあるものの、リーダーとして活躍しているし、今回爆破テロが発生したエルサレム各所は、私自身つぶさにこの足で歩いたところだし、破壊のひどかったテレアビブ最大のショッピング・センターでは、イスラエルの友人達と食事をした身だからだ。

こうして、テロ活動のエスカレーションに比例して、私の友人達の安否についての懸念が募っているところに、今度は中国の台湾威嚇の軍事テストと来た。

これは人類にとって、ソ連を向こうに回して

の冷戦以上に、根深くやこしい新しい冷戦の開幕と言えらる。この件でアメリカは、ジワリと冷汗をかき出した感じだ…。

こんなことを何となく考えながら歩いていた私だが、気がついたら、何時になく歯を食いしばっている自分がそこにあった。

多分滑ってこけまいと、気を張りつめているからだろう、と思った途端、何かでスポーツ選手の歯はボロボロと読んだことを思い出した。歯を食いしばるからで、その負担から凄く歯を傷めるのだそうだ。

と言うことは、他の心理的ストレスも歯のコンディションに関係があるに違いない。そうだが、そのことも、日米比較という視点から、古山医に聞いてみよう…。

ジーン・古山医(以下F医)のコメント

F医のことは当誌の83号で取材したが、進取の気性に富むアメリカ女性である。男性天

国の「日本男性と結婚するアメリカ女性の気が知れない。私なら絶対しない」と思っていたところが、微粒子分野を専門とする古山博士と恋に落ちてしまって、すったもんだの末——と言っても、彼が親から勘当されただけだが——結婚したので、古山医の姓となったわけである。

勿論とうの昔にこの勘当も許されて、二人は今年12月に結婚28周年を迎える。こういう背景から、こと口腔衛生の日米比較となると、彼女ほど適切な人は稀有となる。

日米比較

立場上日本に対する思い入れの深いF医は、3年前の取材の時、日本人の口腔衛生観念の希薄さを嘆いて、滔々と語ったものだ。

しかし今度は些か違った。

「日本の矯正が随分良くなりました!」、とまず言った。「デンタル・フロスを使う人も些か増えた様よ、特に若い人達がね…、でもまだまだだ、予防よりリペア中心ねえ…」。

そしていきなり保険の話となった。

「日本人は世界でもベスト・テクニシャンで知られているのに——、矢張り保険制度が理由なんでしょう。患部ひとつ、患者1人に、自分で納得するだけの時間をかけられませんからねえ。保険制度は、質の高い治療を阻みますよ」。

つまり、些か向上してきたとは言え、まだまだ低い日本人の歯の衛生管理観念と保険制度が、日本人の口腔衛生の向上を阻んでいる、と言うわけだ。

しかしこれは日本に限られたことではなく、アメリカでも、それが個人がかけた歯科保険であれ、企業が従業員にかけたものであれ、保険は治療上の制限をもたらすから、どうしても治療の質低下となってしまう、と言う。

一方「失業者や無職の高齢者で保険の無い人は、どうしても歯の治療を怠ることになります。金持の高齢者でも、歯科保険をかけていない人は治療を怠ります」。

金持でも?

これは驚くべきコメントだが、30年代の世界恐慌を体験した、又はその話を聞かされて育った私達の親の世代は、この長生き時代、生きのび過ぎて、財産の底がつくのを恐れてい

る、と言う。

そんな話を聞いている中に、私の気は減入ってきた。何と人間とは、いくつになっても、どんな環境に在っても、心配ごとが絶えないものか…。これではまるで、苦勞する為に生まれてきて、懸念・心痛に脅かされながら、或る日死を迎えるようなものではないか。一体「生きる」とは、どういうコトなのか——？

そんな私を、F医のほがらかな笑い声が現実を引き戻した。「ところでアメリカ人歯科医は、日本人患者が大好きよ!」。

それで私も、「訴訟にしないからでしょ!」と笑った。

「そう、それもあるけど、アポはちゃんと守るし、治療代もちゃんと払うし…」、とここでF医はまた声をあげて笑い、「それに日本人の口の中には、やるべきワーク(仕事、つまり治療)が沢山、しかも高価なのがね!」。

だから近年、「OCSニュース」などの米国で誕生した邦字新聞に米歯科医の広告がビッシリとなっているわけだ。それらの殆どは日本人スタッフを雇って、「日本語でどうぞ」となっている。

ちなみにルートカナルの日米比較では、35才で平均アメリカ人1本、日本人は4本だそう。私は1本だからアメリカ・レベルでも優等生(?)となるのでは、と思うが、3年ほど前にやったこのルートカナルの経過がどうも思わしくない。数カ月ごとに腫れてきて痛むのだ。自己管理——1日数回ブラッシング、ガムのマッサージ、リストラインでうがい——に本腰を入れるようになってからは、腫れて痛む頻度は遠のいたものの、風邪気味となると体内に進入した細菌のせい、腫れ気味となる。

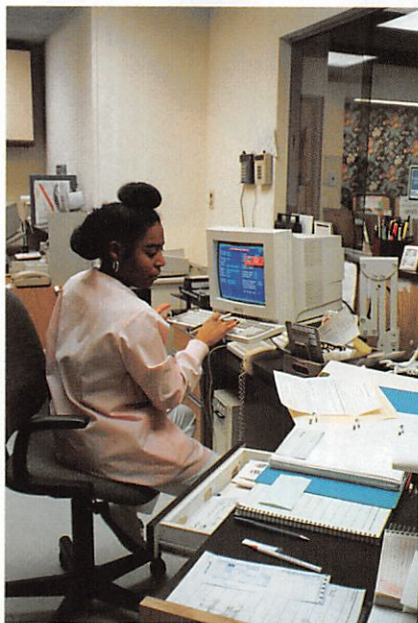
生れて初めてのルートカナルだから、術後の経過体験も初めてで、腫れて痛みが激しいと、貰うペニシリンで宥める方法を繰り返してきたが、1日4回たしか2週間飲むべきペニシリンを忘れてたり、途中で止めてしまったりで、体内にまだ生き残っていた細菌にかえって抵抗力をつけてしまったらしい。

ともかくこれはこじれる前に、根本的に診て貰う必要がある、と意識し出していたのでF医にそのことを言ったら、途端に学者・研究者の表情となった彼女が即座に言ったことは、「ルートカナルの成功率は94%、あとの6%は

…」、つまり私はこの6%(失敗)に入っている可能性が強い、という顔つきだ。

私自身、元々そういうコトだろうと察していたので、善は急げで3日後に診て貰うことにした。

歯の衛生管理のことから、日本政府の「8020運動」の件を持ち出したら、F医がすぐさ



ま、右手のつき出した親指を下に向けたので、噴き出した。アメリカ人がこのしぐさをした時の意味は、「ノウ! ダメ!」だ。

「何故?」と追跡したら、案の定、「そんなコトではダメ! 28本よ!」。

そんな志ではあかん、もっと大志を抱け、ということだ。人間の歯は32本で、親知らず4

本は失うこととして、何と残りの28本は全部残せ、と言うわけだ。

アメリカで現在そういうキャンペーンはやっていないらしいが、無意識に多くがそう心掛けていているらしい。戦後生れの「ベビーブーマー」世代は50才となったところだ。この人達はフッ素導入や口腔衛生教育が進んだお陰で、80代で28本自分の歯を保持している人はザラだろう、と言う。更にシーラントの恩恵にもあづかる彼らの子供達が80代になった時は、28本は当り前のこととなる。

つまり歯科医学の進歩は目覚しく、それに平行して米社会での歯科医のステータスも上っている模様で、社会的イメージは今やトップから2番目か3番目位じゃないか、とF医は言う。「トップは?」と聞くと、ちょっと首を傾げて、「薬剤師だと思う」。

これは一寸意外な返事だった。年齢や分野で人に依って意見も違うだろうが、職種に関する世間の認識が時代の変動に添って変わるのは事実だ。

女性歯科医に対する世間の認識は、一般的に良い様だ。特に、歯医者に行くのが(怖くて)億劫な人達には受けが良い感じだ。男性に比べて女性の歯医者さんの方が、「優しく、審美的」と思い込んでいる社会層は多いらしい。

「本当はそうじゃないんですけどね」、とF医は笑うが、この私は、「女医の方が優しい」という世間の認識は、総体的に真実から遠くならず、という意見だ。たとえば人間的コミュニケーションが重要視される「広報」分野は女性向き職種との意見がアメリカでは定着しているが、それと同じ理由でそう思う。

余談となるが、特定専門分野で「同じレベルで男性と女性が活躍していて、私がおのどちらかに何か依頼する場合、私の選択は先ず女性の方となる。これは私が女性だからといった偏見に基づく選択ではなく、30年以上米ビジネス社会で生きて来た人間としての体験観察に基づくものだ。

現時点で30代前半以下の世代には当てはまらないコトかも知れないが、それ以上の年代でプロとして男性と「同じレベルで」肩を並べて活躍している女性は、大体男性の最低2倍位の努力をし現在に至る、と私は認識し

ている。人に依って才能や運の差はあるだろうが、幼少時代からそれだけの努力を積み重ねて来た人は、底力があるし、何より人間的に巾があり精神的にも強靱だから、私は女性の方を選ぶ傾向が強い。

男女同権の民主国家・アメリカでも、まだまだ社会機構は男性優先と言うか、男性中心の思考・習慣が強く、目に見えない壁が女性の進路を阻むことは少なくない。有能な女性幹部が、企業内で或る地点から「グラス・シーリング(ガラスの天井)」に阻まれて先に進めない、といったことだ。

それで近年の傾向は、女性起業家の増加——企業や組織の外に出てコトを起す——となっている。これはアメリカだけでなく、日本でも時の流れに添って強まる傾向と思われる。

話を歯科分野に戻すが、日米の大きな違いは、ライセンスを取得すると日本では何処でも開業可能となるが、アメリカは州ごとにライセンス取得が必要となる。州に依って規定が違うだけでなく、文化(考え方、やり方)の壁があるから、そう簡単なことではない。「女性」歯科医というだけで、州に依っては目に見えない厚い壁に邪魔されて、ライセンス取得が楽でないケースもある様だ。

F医のところに来る途中で思いついた「心理的ストレスと歯のコンディションとの関係」について質問した途端、「日本人は歯ぎしりしますねえ!」と、歯ぎしりの話となった。

F医の観察では、これはもう絶対的に、日本人の方が歯ぎしりするそうだ。中には明らかにひどい歯ぎしりで、根のあたり迄磨り減った歯もあった、と驚きを隠さない。「虫歯でも何でも無くてね!」。

同じ日本人でも、特に駐在員に歯ぎしりが多いという。「アメリカ生活は、彼等にとって相当なストレスらしいわねえ」。そして、「終身雇用的環境での経済安定の為に、多くの日本人は自分の人生の大きな部分をその代価として払っているのですねえ…」と同情的だ。

組織の中に在って、自分を含めてその集団の安全・発展を計る為には、どうしても己を

抑え足並みを揃えねばならない。そこから来るストレスが、日本人に多いという歯ぎしりと深い関係がある様子だ。

というのは、己を尊重する国柄だからか、アメリカ人には歯ぎしりが少ないそうだ。歯ぎしりするかどうかは、歯の擦り減り方で歯科医には一目瞭然でわかるようだ。

どんなアメリカ人の口内に、擦り減った歯が見られるかと聞いたら、こんな質問をされたのは初めてらしい彼女は、ちょっと思案したが、「女性より男性に多いですね…、そして社会的地位が高い人に多いですね」と言った。



口腔衛生商品群

ニューヨーク・タイムズ紙の日曜版は、ドサリと5、6センチはある分厚さで、中に必ず消費者向け日常用品の割引クーポンが挿入されているが、最近いやに歯みがきや歯ブラシのクーポンが目立つようになった。

食品(ジュース、パン、ジャムなど)と洗剤関係が主流だが、そのクーポンでスーパーなどで買物すると、25セントから75セントほど安上りとなるので、利用者は驚くほど多いと調査結果が出ている。

60年代の歯科分野のブレイクスルー(大進展)はフッ素導入で、お陰で87年度の米人口

の5才から17才迄の人口の半分近くが、「虫歯なし(ノーキャビティ)」となった。

90年代の今は、注目がブラークとターターコントロールに集った感じとなっている。販売戦略としてパッケージが多彩となり、ファッション要素も強くなっている。

前回で取材した時、F医がプロクサイドとベーキング・ソーダーが別々に出てくる「メンタデント」の愛用者と聞いて、私もその歯みがきを買ってみた。「プロクサイドとベーキング・ソーダー入り!」というのは今や市場に溢れているが、別々に出てくるのは今のところ「メンタデント」だけである。F医は、この両要素を混合してしまうと効果が減少すると、市場に溢れる混合済みのものは「普通の歯みがき」と一言で却下する。

パッケージのしゃれた「アメーzing・ホワイト(驚く程白くなる)」も、彼女に依ると「基本的には普通の歯みがきね」。

「レムブラント」のメーカーは、「今でこそ大きくなったから、研究開発調査もやってるだろうけど、以前はあまりに次々と新商品を出すので、裏付けとなる研究調査はどうなっているのか——、と思った」。しかしそんなことを知らぬ消費者は、目新しいパッケージと古典的名稱に魅力を感じるに違いない。「レムブラント」と聞くと、人は反射的に美や芸術を思うだろうから

…。

環境保護志向の現代とあって、「ナチュラルもの」も出回り始めた。「トムス」がその典型的歯みがきで、シリーズで色んなフレーバーを出しているが、うたい文句は「全て自然、サッカリンの様な人造物は入っていません」。

「このメーカーは動物実験を拒絶しているため、FDA(米国食品医薬品局)の認可を取るのにとても苦労しました」、とF医はなかなか業界通だ。

多彩となった歯みがきの形式については、これ迄のチューブ入りで横にねかせるスタイルの他に、縦に立たせる「スタンドアップ」式が増加してきたこと。そしてこれは未だ極少数だが、「メンタデント」の様に縦型で、使用の際

上部を押す形式の「パンプス」となっている。「スタンドアップ」が増加しているのは、モノ溢れの近代生活での空間節約、ということからと思われる。

文献に依ると、歯ブラシ発明は1770年頃で、それがデンタル・クリームやパウダーの発展普及に繋がった、とある。これがペーストとしてチューブ入りとなるのに1世紀以上かかっている。チューブ入り発明は1892年で、米コネティカット州のW・W・シェフィールド歯科医に依るとなっている。歯ブラシの発明者は英国人のウィリアム・アデイスという人で、当時暴動を起した罪で刑務所で服役中だったという。

古山医と最新テクノロジー

こういう表現は誤解を招くかも知れないが、3年前にF医を取材した際、私はこの人にテクノロジー「道楽」症候群を見た。

工作上、便利な——、つまり最新の器具・機械が登場すると、どうしても購入したくなるということで、私はこの表現を良い意味で使用している。歯科医としての彼女にとって、最新器具・機械はより快適にそして効果的に、仕事に励む為の「道具・手段」なのだ。

これは当然分野によって異なり、思考したり物を書いたりすることが多い私にとっての「道具・手段」は、オフィスも自宅も必要以上に広々と、日射しも良ければ外の眺めも良く、というのが環境条件で、あとは使い易い大型机、ペン、紙——、といったことになる。

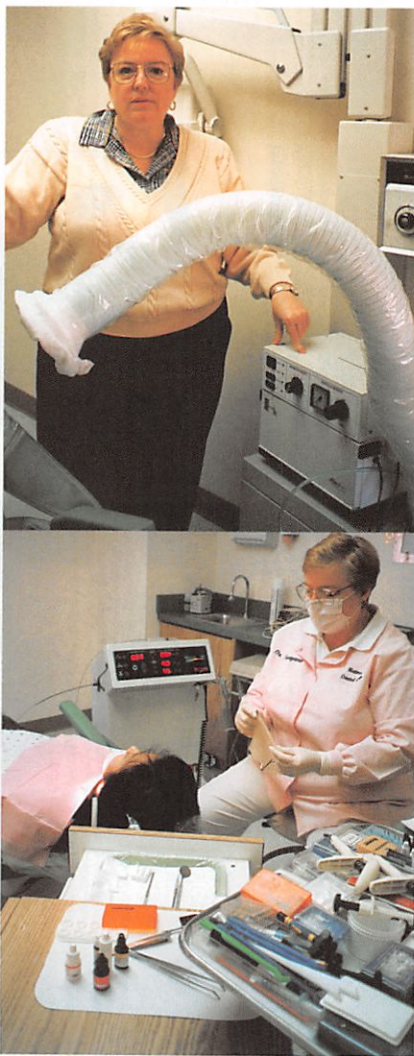
価値観の異なる人から見れば、一見趣味の贅沢の感が無きにしてもあらざるだろうが、仕事人として快適であれば、不必要なストレスに惑わされず生産性も上るといものだろう。

そういう考え方の私なので、F医のオフィスを訪ねて数分で、「この人は道具・手段向けには金に糸目をつけない人」と感じとったのではないと思う。

今回訪問したら、彼女の診療所は空間的に2倍のサイズとなっていて、案の定、新しい機械が増えていた。その最たるものはこの1月、つまり2ヵ月前に購入したばかりの「クリエイティブ・アドバンスド・パーティクル・ビーム・マシーン」。これを導入したのは、天下のニューヨークでも彼女が2番目の開業医だそう。

白くて太くてニョロリと動く導管のついたこの機械が何をするかと言うと、虫歯の患部をドリルで削る代りに、空気ですり減らし切削してしまうのだそう。

誇らしげにF医が、「27.5マイクロン微粒子で——」何のかんの、と難しい説明をしてくれたが、ひと言でいうと、エア・アブレーションなのでドリルの時の様にノヴァケーン麻酔注射の必要が無くなった、となる。何故か？無痛



だからだ。その意味するところは？患者にとっては、治療前後の口半分の麻酔感覚からの開放、歯科医にとっては、治療スピードが凄く速くなる。

「これ迄の1本にかかる時間で、5本治療出来ます」そう。

口腔内の同じ側に5本虫歯が並んでいるわけではないから、その場合の治療はこれ迄の麻酔を使ってだと多分2~3回に分けて、と

なろう。この機械でやれば、1回で全部出来るから、患者にとっても歯科医にとっても、大変な時間の節約となる。

「それで、これ迄虫歯1本170ドルだった治療代を、125ドルに下げました」、とF医は言う。

なかなか見上げたものだ。世間の常識では、高い機械の購入代を取り戻す必要もあるし、とこれ迄通りの治療代の正当化、となるケースが殆どだろう。

ところで前出のニョロニョロした太い導管は、患部切削で空中に舞い上るゴミ、つまり微小体を吸いとる役目を果たすものだ。

患部切削が済むと、レーザー治療となるので患者を含めみな色つきメガネをかける。

全く本当に、医学の進歩は目覚ましい。この機械というかテクノロジーは1947年に発明されたが、治療材料の方が遅れていて、その進歩が現レベルに達する迄アプリケーションとならなかったそう。

2年程前に市場に登場した「ペリオ・テンプ・システム」も、診療室の片隅に鎮座していた。これは即刻、歯ぐきの異常(炎症)を探知するもので、交通信号的に「グリーン」なら「OK(異常なし)」、「黄」となったら「正常だが温度高し」、「赤」となったら「危険、要注意!」と知らせ、レジ式に特定の歯のナンバー、温度、ポケット深度^{ディPTH}ミリ、とプリントアウトするものだ。

F医のところにやって来る新患者は、まず1時間位かけての総口腔検査を受ける。口腔内のそれぞれの歯のレントゲンが18枚(70ドル)、顎の周りをぐるりと回って撮るパノラマ・レントゲンが1枚(60ドル)、そしてF医の触診(45ドル)——で、計175ドルだ。他と比べて、更にその診療の質の高さも考慮に入れると、これは高いどころか安い方と言える。

パノラマ・レントゲンは確か23秒と聞いたが、他の別個のレントゲンは1枚当り他所の1/5位の速さの「ジッ」で撮り終わるから、これも最新の機械なのだろう。

筆者紹介/岩本蘭子

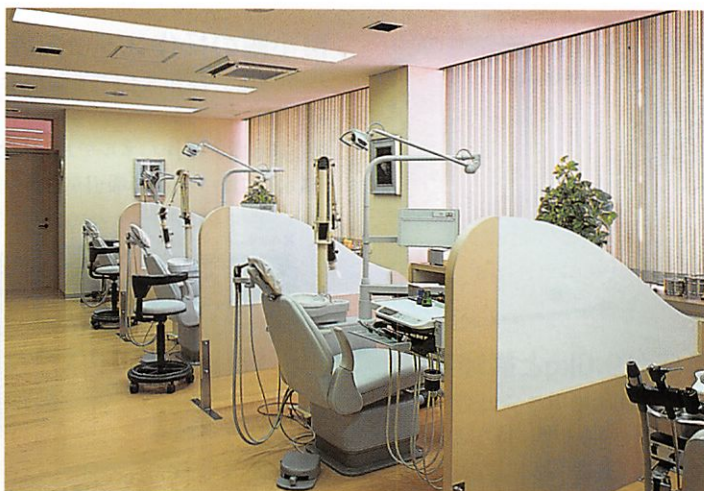
ボストン大学大学院ジャーナリズム科卒
ランコインターナショナル社長

オサダの商品<お元気ですか>

永井歯科医院

新潟県上越市南本町2-6-34

院長 永井孝之輔
副院長 永井謙



直江津と高田が合併し現在人口およそ13万3千人を有する上越市。ご紹介の「永井歯科医院」は高田駅前通りを抜け、右に折れた旧国道筋に建っている。

広い敷地に、前面を駐車場、赤レンガで作られた3階建の医院建物から、更に裏手にはしっとりとした院長の純和風の日本家屋。地域に根付いたどっしりとした風格を感じさせる歯科医院である。

階段を上がって2階の診療所へ。待合室はフローリングの床に、円形のテーブル。それに沿って待合用椅子が半円を描く。

診療室内は、大きな窓に沿って、スマイリー<ノーベル>S型3台と14年ほど前にご購入頂いたスマイリーNタイプ1台が、木目と乳白色の波形を描くパーティションの中に並んでいる。

明るい茶系で統一された清潔で働きやすいような診療室である。

院長は、昭和22年東京歯科大学をご卒業。卒後は故郷に戻られ、地元の国立病院に3年、吉川病院に10年という、長い勤務医生活を経て、昭和35年に開業。昭和57年まで22年間、此処からほど近い場所で開業され

ていたが、ご子息が戻られることから当地に新築移転。心あらたにスタートを切られた。その間、新潟県歯科医師会副会長や、上越市歯科医師会の副会長等、会の役職に貢献・活躍された方である。

とかく不在になりがちな院長に変わってその間医院を取り仕切ったのが、副院長であるご子息謙氏。

大学は院長と同じく東京歯科大学(昭和53年卒)。卒後は日大歯学部解剖学教室に勤務医をされながら4年、お父様のもとに戻られてからも2年間通ったと言われる努力家。



副院長: 他社製品に比べ、故障率も低く、アフターも良い。スマイリーN。今は親父の専用ユニットとして、もう14年使っています。

院長: 私専用のユニットとして現在も活躍中。後継者もユニットも…。恵まれています。

である。

ちなみに永井家は、院長のご兄弟とご子息、副院長の奥様のご両親とご兄弟、妹さん夫妻と、一度言われただけでは覚えられないほど、歯科医師に囲まれた家系である。

— 院長、昭和22年の卒業と言いますと戦中の学生生活。いかがでしたか？「ええ、そのため、下宿も目蒲線の小山、信濃町、中野、最後は三鷹と空襲で転々と動きました。卒業した頃は食糧難で東京にいられず、すぐ帰郷、地元で働くようになりました。同期生には、元衆議院議員の関口恵三氏や奥羽大学学長の能美光房氏などがおりますが、当時は皆さん若く元気であったものの、食べ物には苦労しましたね。又、当時は国家試験も足踏みエンジンの機械を使用。今では考えられない様な時代でした」。「開業当初も今と違って、



朝は5時頃から患者さんが並び、日中は待合室から階段、更に居間の方までと。口腔内を診ると子供などはムシ歯だらけで、とにかく痛がる歯

だけを治療するだけで手一杯。朝から夜遅くまで夢中で働きました」。「今は昔と違って歯科医の過剰時代ですが、ふり返って考えますと、確かにお金はさほど不自由しなかったけれど、休みもなく連日仕事に追われて、家族も淋しい思いをしたことがあったと思います。どこに価値観を置くか、難しいですね(笑)」。

— そういったお父様の姿を見て育った副院長。ご感想は？「確かに学校から帰れば玄関中履物だらけ、いつも人で溢れている光景が残っていますが、だから歯科医はやめよう、と思ったことは叔父を含め周りに歯科医が多かったからか、ありませんでしたね。親父とは時代も技術やテクニックも総て違いますが、後悔したことはありませんよ」。「私達が大学に入学した頃は医者、歯医者とは花形職業で、卒業後も1年位は1日5~6人の患者さんをしっかり診療すれば充分経営が成り立つと



言われておりましたが、今ではとても無理。歯科医師が増えて、夜間も休日も診療する時代を迎えている現状をみますと、世の中の流れと逆行しているのではないかと感じます。親父の時代とは違った意味で、大変な職業になって来ているのではないのでしょうか」。「今の医療制度は出来高制度ですから、本当に自分で納得出来る治療をする場合、時に矛盾を感じますね。講習会等で色々なケースプレゼンテーションを見るのですが、内容は勉強になるし、素晴らしいのですが、果してそれが毎日の診療でどこまで出来るのか。もし、全部やっていたら医院経営は出来ない、と感じてしまいます。そうした矛盾は皆さん感じているのではないのでしょうか」と自身の研修・勉強内容と現実とのギャップを正直に。次代を担う若い先生方が今後解決しなければならない保険制度の在り方や歯科医療の位置づけ。真剣な心が伝わって来る。



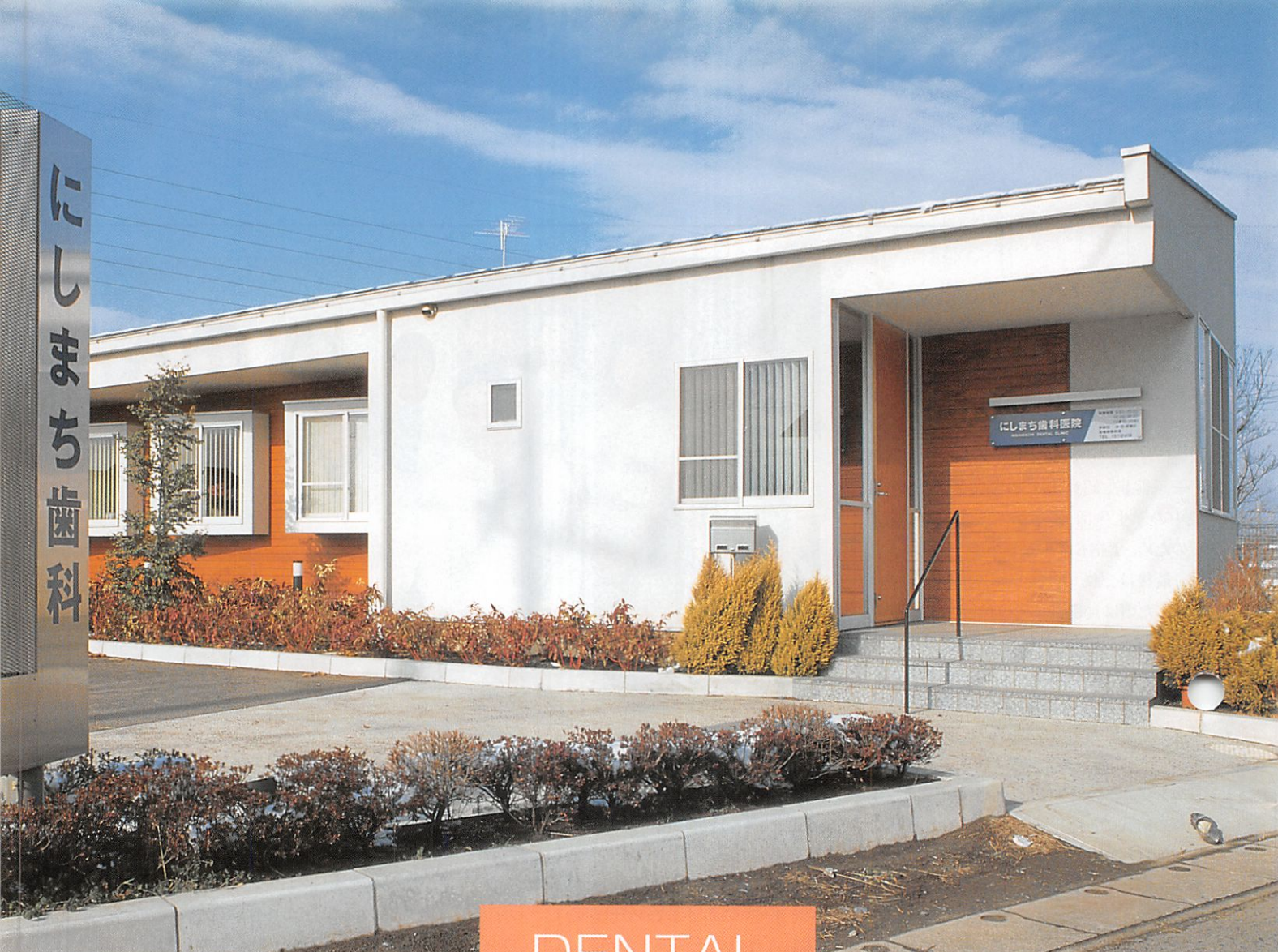
— お父様から最も学ぶべきところは？「親父は以前から、歯周病＝歯槽膿漏を防ぐための処置をしっかりやれば、急性疾患は起こらないという方針で、月1回のリコールを実行していました。私もこの方針を貫いていますが、今では多いこの考え方を10年以上も

前からやっている。親ながら、立派だと思いました」。

— 良い後継者に生まれ…。ご子息に望まれることは？「病気をしないで、歯科医師として毎日充実した日々を送って欲しい。誤ったことはするな。そして狭い範囲でつき合うことなく、巾広く世間のことを勉強して欲しいですね。まだまだ足りないことばかりで、と口ではおっしゃるが、安心してまかせられる後継者に生まれ、今では1日数人の、昔からの患者さんをゆったり診療されている様子。

— オサダのユニットを長年ご使用頂いておりますが、ご使用感は？「私がここに戻った頃、このスマイリーNを父と相談し購入したのですが、親父もそろそろ歳になりましたので、1台を残し昨年スマイリー<ノーベル>に入れ替えました。オサダのユニットは他社製品に比べて故障率が最も低く、後々のアフターケアも非常にいいのが、再購入の動機です」と副院長。「長い間オサダを使っていますが、残った1台はまだまだトラブルもなく使えますので、私の専用ユニットとして大事に使わせてもらっております」とうれしい院長のお話。

戦後50年、日本の文化、政治、経済、総てが変わっていく中であって、歯科医療界もその形をいま大きく変えようとしている。永井歯科医院の場合も複雑多岐に亘る患者さんの要望を柔軟な若い副院長の頭脳と姿勢で、巧(たく)みに荒海を乗り切っている。そんな印象を受けた、今回の訪問でした。



にしまち歯科

DENTAL SPACE

にしまち 歯科医院

茨城県つくば市谷田部2124

院長 佐藤玲子

白を基調に、木の暖かさを採り入れ、スッキリとしたイメージにしたいと心掛けました。

常磐高速自動車道・谷田部I・Cから車でおよそ5分。筑波学園都市が年々拡大・発展していく中であって、ご紹介の「にしまち歯科医院」の建つ国道354号線沿い周辺部も、丘陵地が切り崩され、モダンなマンションや商店、又住宅地へと移り変わっている様子である。

医院も前にしゃれたレストランが建つ角地に、全面は10台は充分可能と思われる駐車場を有し、白の外壁を見せ、広いスペースにゆったりとした感じで建っていた。

中央に手すりを設けた階段を3段ほど上って木目を使った玄関ドアに。靴を脱ぎ引き戸を開け待合室へ。6人掛けのグリーンのソファが、壁面から窓に沿って広い室内にL字形にゆったりと置かれている。

診療室内はやや斜めに取った出窓に春の花々が置かれ、それに沿って濃淡グレーのファインGMが設置されている。ユニット背面も広くとり、その背後に大型のキャビネットを設置、両側から出入りが出来るよう作られている。表面は手洗いや器具収容棚、裏面は消

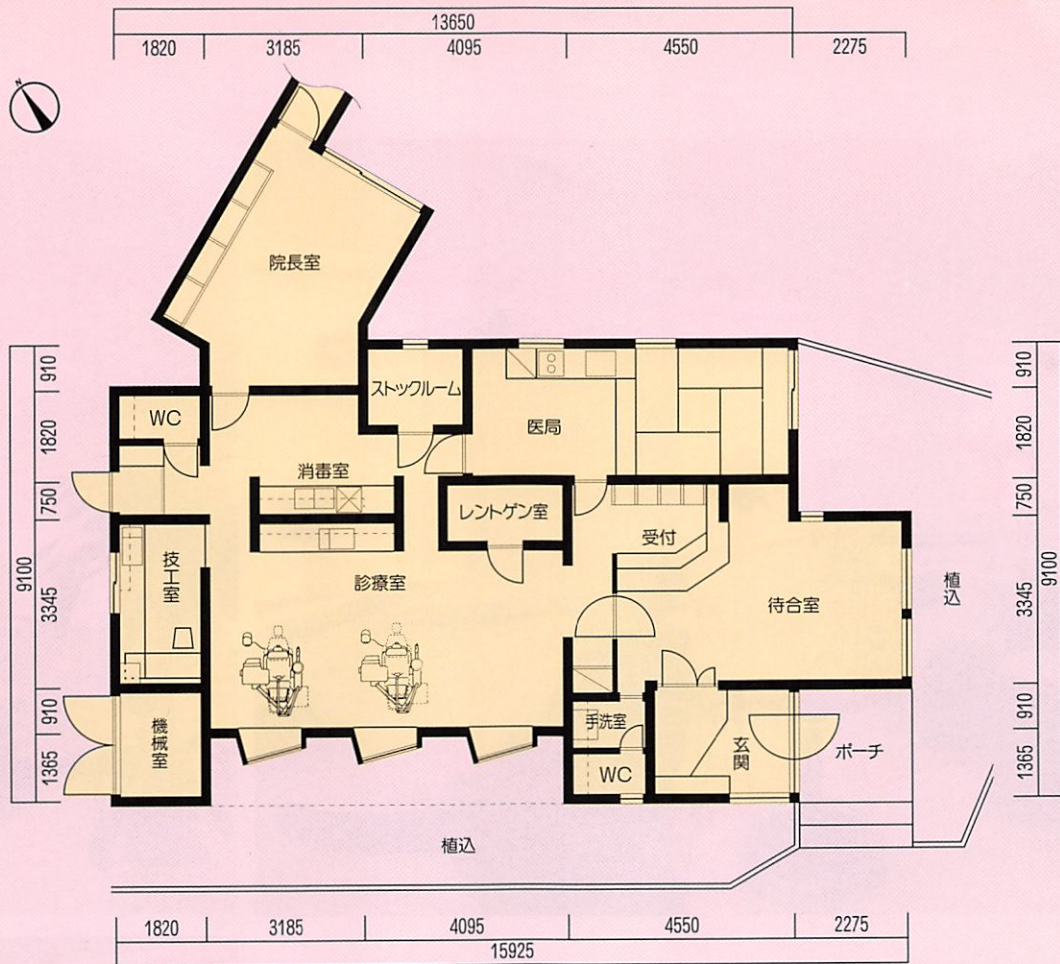
毒その他汚物処理コーナーとなっている。建物を含め、総てを白を基調に木目の茶をアクセント色として使用した、スッキリと明るく、清潔なイメージを与える診療室に仕上げている。

院長は昭和60年、日本大学歯学部をご卒業。卒後は同大の医局で約2年研修。その後東京や埼玉等で勤務医を経験後、一昨年11月、生まれ故郷である此処、つくば市に戻り開業に踏み切られた。

診療所から続く2階建ての住居。広い敷地にゆったりと広い診療室内の各部屋。スタートして一年半と短期間であるが、患者さんにも恵まれた順調なスベリ出しのご様子である。

Q：スタートして約一年半。落ち着かれましたか？

院長：最初は、まあ1日5~6人を診ながら、ゆっくり考えてやって行こうと思っていた



■施工：(株)大竹工務店 ■開業：平成6年11月

■スペース：約125m²（約37.5坪） ■ユニット：ファイン<GM>L型2台

■診療時間：9:30～18:30、土曜日9:30～16:30 ■休日：水曜、日曜、祝祭日

■スタッフ構成：ドクター1人、衛生士1人、助手2人 ■患者数：1日約20～25名



院長 佐藤玲子先生

んですが、地元でしたので知人の紹介等もあり、1ヶ月もたたない内に15人以上も来院されるようになり、バタバタしてしまって(笑)。最近は流れもわかるようになり、やっと落ち着きました。でも患者数と点数は別(笑)。これからしっかり勉強して、地域に根付いた信頼される歯科医になりたいと思っています。

Q：女医を志された動機は？

院長：親戚にも医療関係者は全くおりませんが、先年亡くなった父が、女もこれからは手に職を持ち生きていく時代とよく言っていたことから、この道に。進路を決めた当時、医師は夜中の応診などもあり、女性には大変かな、と思い歯科医を選びました。でも全く知らなかったからこの道に入ってしまった、という感じも半分はありますね(笑)。

Q：で、今のご心境は？

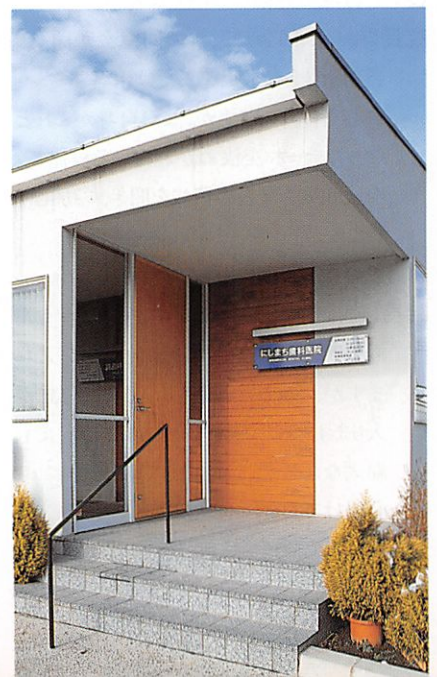
院長：他の職業は全く知りませんので比べようがないんですが、歯科医は肉体労働的な部分も多いし、結構大変な職業ですね(笑)。でも、自身で100%満足することは少ないですが、患者さんに喜んでもらえることはうれしいですし、こうして手に職を持つことが出来たことは良かったと思っています。

Q：男に生まれれば、と思ったことは？

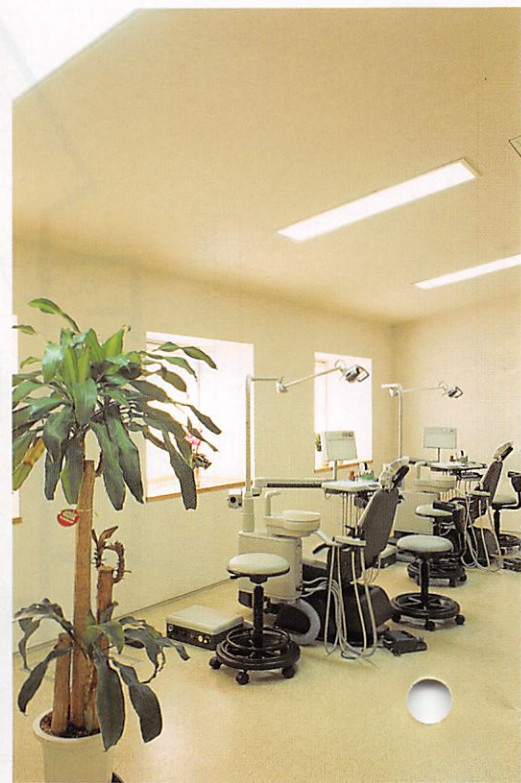
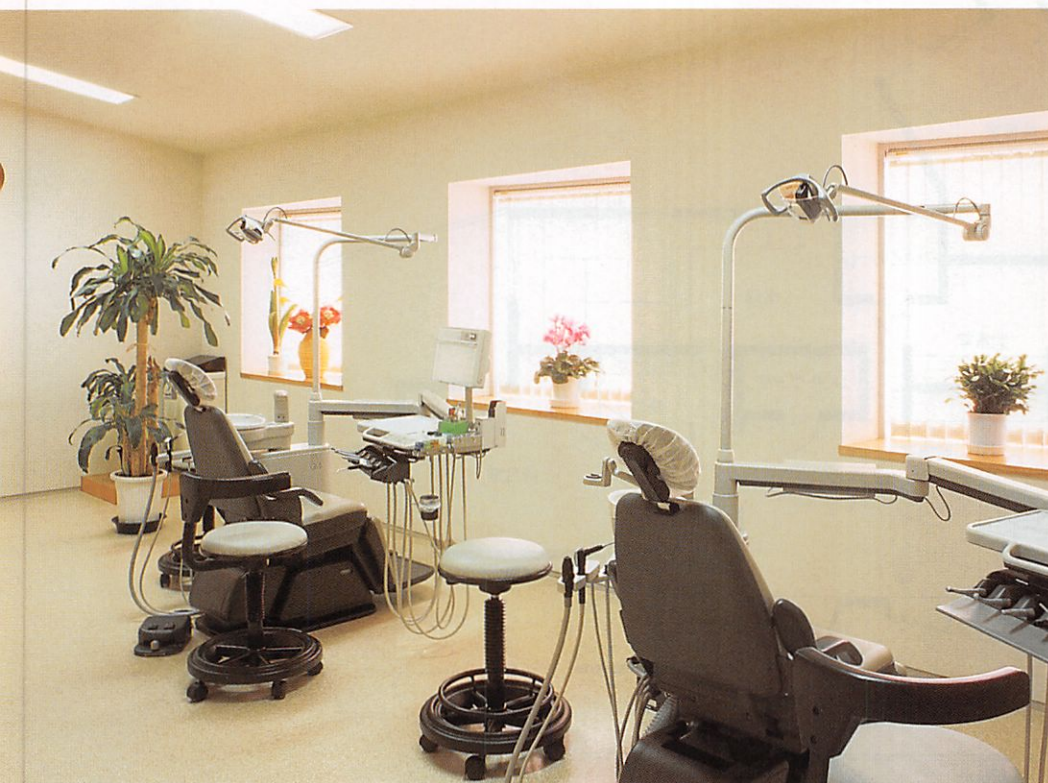
院長：勤務医時代、患者さんから“なんだ女の先生か”という目で見られた時など、少々感じましたね(笑)。まだ貫禄もありませんから、患者さんから見れば多少不安で理不尽な言葉の一つも、と思うことがあるでしょうね。が、逆に女性の方がやさしいイメージもあるようで、メリットもありますよ(笑)。

Q：ご本名が佐藤で、にしまち歯科とは？

院長：近くに佐藤歯科という医院があることから間違えられると…。色々考えたんですが、国道の向こう側が西町ということか



DENTAL
SPACE



ら、患者さんも来院されると思いこの医院名にしました。

Q：ご自身の勉強については？

院長：歯科医師会や大学の同窓会が開く講習・講演会には出来るだけ出席するように心掛けていますが、まだ自身がこれといったテーマを決めかねている段階で。今後知人、友人の情報を聞き、参加して行こうと考えています。

Q：患者数も順調のようですね。

院長：1日25名が精一杯ですが、キャンセルもあることから、それに近い予約を入れますが、全員が来院され、そこに急患が入りますとアタフタしてしまって(笑)。でも順調なスタートでホッとしております。

Q：心掛けておられることは？

院長：勤務医時代、色々なところに務めたことから、自分が治療した患者さんがその後どのような経過をたどっているか知らないんです。でも今後は、子供さんが成長し、大人から次第に年をとられて行く過程を総て自分で責任を持って管理していくわけですから、やりがいもある反面、責任も重大。自身の勉強も怠りなく、よりよい治療を丁寧にやって行きたいと心掛けております。

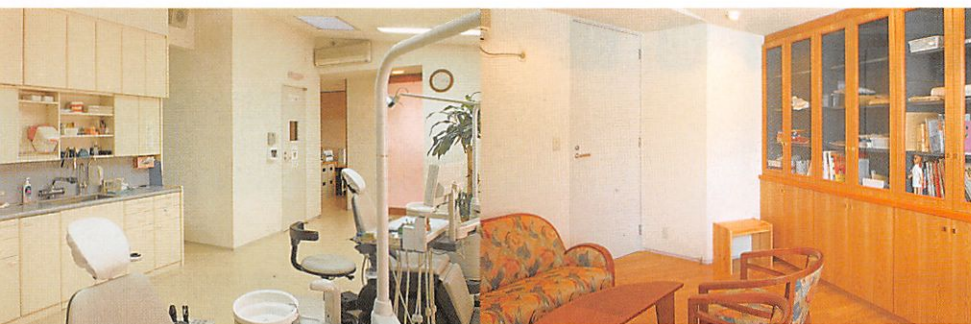
Q：広い敷地にゆったりとした建物。建てられるにあたってご留意された点は？

院長：叔父が土地を持っておりましてので借りまして…。内部はどうしても将来物や色が溢れますから、初めはスッキリとまとめようと…。白を基調に木の暖かさを各部

に採り入れただけで仕上げました。郊外住宅地ですから患者さんも広い家に住んでいる方が多いことから、各部を広めに作りましたが、チョット広すぎたみたいで、スタッフ同士も大声で言わないと聞こえない時もあるんです。それが…(笑)。

Q：オサダのファイン<GM>。選んで頂きました理由は？

院長：勤務医時代は各社の製品を使っただけですが、実はあまり関心がなかったんです。で、開業にあたって歯科器材店に相談したところ、後々のことを考えて、買うなら大手のメーカーが良いと。中でもオサダのファインGMが使いやすいからと、先輩の先生や、お店の社長さんも言われましたのでこの機種に決定しました。



Q：将来は？

院長：この辺りは、まだまだ東京と比べますとお母さん方の歯に対する認識が低いように感じますので、出来たら母親学級などを開いて、認識度を高めて行きたいな、と考えています。まだ開業まもなく、日々の診療や説明、ブラッシング指導などで手一杯ですが、ゆとりが出来たら将来は、と考えているんです。都会には総て仕事として割り切れる良さ。地方には人間的にギスギスしない暖かい交流がある良さ。どちらが良いとは言えないんですが、開業したからには、その地方の良さを大切にやって行きたいと思っています。

<施工の立場から>

歯科医院に来られる方は当たり前ですが、歯の苦痛と共に精神的にも落ち込んでいる

方が多い。その為、そうした方々を心身共に少しでも和らげてあげられるようにとの先生の希望から、この辺りではまだめづらしい床暖房を設置。同時に天窓を取り付け、天候によってブラインドで明るさを調節出来るようにしました。

各部も郊外地で敷地に余裕があることからゆったりと広く取り、出入口の戸も通常より高めにしましたので、伸び伸びとした開放感を来院者に与えております。

木の暖かさと白の清潔さ。医療の持つ本来の姿を建物と各室内に取り入れた、現代にマッチした歯科医院であると自負しております。

最後になりましたが、佐藤先生の優しい心配りに感謝致すと共に「にしまち歯科医院」の益々のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

(株)大竹工務店



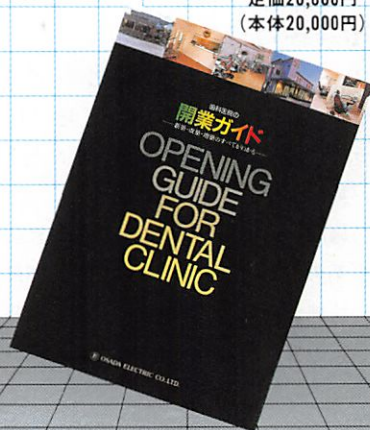
改訂版 開業ガイド

歯科医院の新築・増改築などに
豊富なカラーphotoを
多数掲載!!

<主な項目>

- 歯科医院のセクション別実例
(カラーphoto118点掲載)
- 歯科医院のレイアウトチェック
リストと基本事項
- これから開業される先生方へ
——オサダからのアドバイス
- 開業と税金の知識 他

定価20,800円
(本体20,000円)



※御希望の方は下記迄、御連絡下さい。
長田電機工業(株)／お客様センター
〒141 東京都品川区西五反田5-17-5
TEL 03(3492)7651(代)

コロニー嵐山郷

(埼玉県社会福祉事業団)

埼玉県比企郡嵐山町古里1848

医 長
内 田 淳



池袋より東武東上線に乗り、1時間。秩父山地の麓、武蔵丘陵一帯も3月の声を聞くと、木々の蕾は未だ硬いものの、明るい陽射しが春近しを感じさせている。

コロニー嵐山郷は森林公園駅から車でおよそ15分。木々に囲まれた広い平地の中に、真っ白な建物と手入れの行き届いた庭を有し、ゆったりとした姿を見せていた。

当施設は昭和51年4月、埼玉県が社会福祉事業の一環として建てた、重度及び最重度の精神薄弱児(者)の方々と重症心身障害児(者)の方々が入所利用するための総合福祉施設である。

現在入所者は、精神薄弱者200人、薄弱児100人、重症心身障害児(者)60人の計360人。施設内では単に医療を施すだけではなく、障害や能力の程度に応じて、手工芸、造形、運動、音楽、農園芸、基礎の各6科目で、療育・作業・訓練を行うという、総合的な訓練もされているようだ。

ご紹介の歯科室は、入所者のために昭和51年に開設されたが、地域の在宅障害者の家族の要望から門戸を広げ、昨年4月より建物も新たに増築、外来の診療も受け入れる体制を整えた。(予約申込制度は別図)

診療室内部は刺激色をさけた淡いピンクと白でまとめ、大きめにとった窓からは明るい日



射しが室一杯に広がっている。当然のことながら、通路は車椅子が楽に往来出来る中と、壁には総て手すりが取り付けられ、万全な作りが施されている。

通常治療に使われるのがオサダのフィン<GM>とSTシステムと呼ばれる特殊歯科治療専用ユニット。第2診療室と呼ぶ別個室には更に1台スマイリー<Z>タイプが設置されている。医長のお話によると、この室は「身体に障害を持つ方や高齢者は菌に対する抵抗力が弱いと、色々な感染症にかかりやすい。そのため感染症の患者さんを治療する時に使用する専用室として設置しました」とのこと。ユニットの背面には車椅子でも自由

に回転出来る広いレントゲン室。室内には座ったままで全顎レントゲンが撮れるよう改造したオサダ<パントリア>と<ファンク10>のチェアーが1台。レントゲン室の隣りは静養室。麻酔や薬を使用して治療が終わった患者さんが元の状態にかえるまでベッドに寝かせる室である、とのこと。傍らには血圧計や心電図の機械等総てがとり揃えられている。

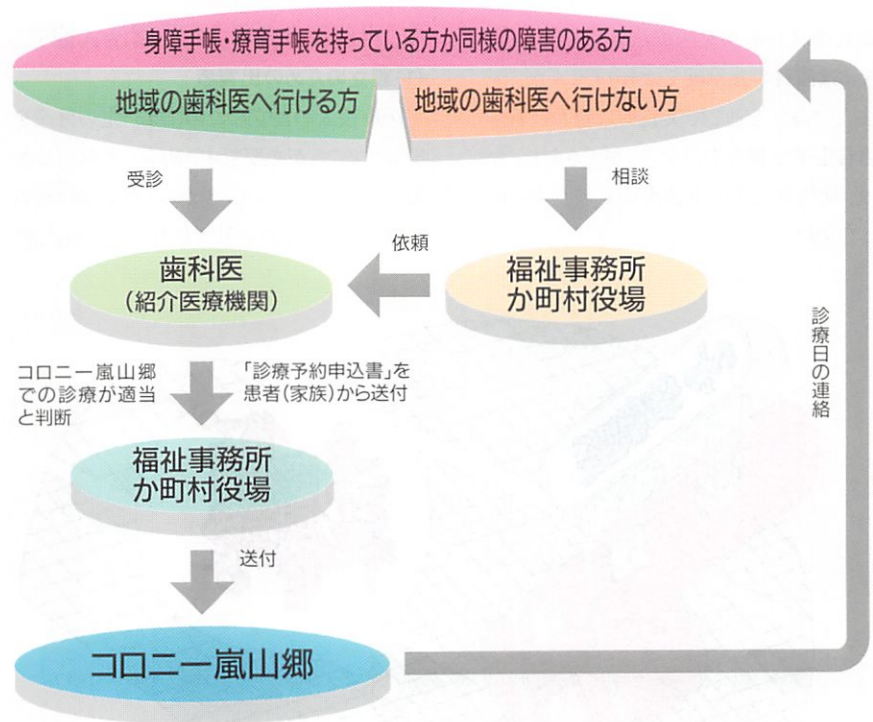
診療の合間をぬって、当歯科の医長を務められる内田先生から、診療のシステムや状況、又ご自身の動機・感想などをお聞きする。

「現在、こうした施設は県内に5つあります。当初はこのコロニーの入所者を対象に歯科診療をやっておりましたが、外来者も受け付けるようになりましたので、私も昨年4月からここに参りました。建物は県で建てましたが、運営は県より委託された社会福祉事業団が中心になって行っています。機器類も、ユニットや麻酔器等、高額なものは県の予算で買いますが、タービンバーや材料・薬品など日々の消耗品は事業団で購入しております。スタッフは常勤ドクターが1名、衛生士2名、看護婦1名ですが、週2日位の割合で、母校からドクターが1名、麻酔科からも1名ほど来て下さり治療にあっております。患者数は、1人の時は1日12~13名、2人の時は20名

前後の治療を行っていますが、日大歯学部が全面的にバックアップしてくれておりますので、その点心強いです。「心身障害者の治療の難しいところは、補綴物を入れても、自身の意志でコントロールが出来ませんから、思ってもみない様な力が咬合面に加わり、対合歯まで痛めてしまうケースが多く見られます。そのため保存を主に治療する方向でやっておりますが、そうなりますと根管治療など、回数も必然的に多くなり、従って治療人数も限られ…。こうした心身障害者を対象にした症例がまだ日本では少なく、手さぐりの部分もあり…。高齢者社会になっていく現状を考えますと、早急に、と思えますね」。

医長は昭和63年、日本大学歯学部をご卒業。卒後同大大学院へと進む。専門は小児歯科。「こうした治療は体力も要しますので、若い時でないで経験出来ないと、教室に話しがあった時すぐ決心しました。県北にある皆光園で3年、ここに来て1年経ちますが、こうした方々は健常者に比べ、遠慮や我慢もなく、痛いものは痛い、嫌なものは嫌とすぐ反応を身体で現わしますから、自身の診療評価をすぐ知ることが出来ます。又、お互いの意志の疎通は少ないのですが、こちらの接する態度で2~3回来られる中に、信頼関係が生まれます。大変な面もありますが、一方やりがいも一般の患者さんよりありますね」とニッ

障害者歯科診療の紹介予約制度



コリ笑った涼しい目もとがやさしい。「この施設内には医科も総て揃っていますから、全身麻酔から感染症のデータ、個々のケースの対処方法等、色々勉強出来ます。又、一方医科の先生方も入所者の歯の状態を相談に来ますし、共に協力し合って病気に対処出来る、いわば高次の治療を学ぶことが出来ま

す。「将来は、まだはっきりとは決まっておりませんが、異常を知っていれば、健常は出来ると思っていますから、今の内に出来得る限りの経験を積みたいと思っています」。開設時に近い昭和54年から当科で働かれる衛生士の大久保さん。「学生実習の時にここに来て、非常にやり甲斐を感じましたので、卒業後も希望して来ました。意志の疎通が図れない方もおりますが、中にはこちらの気持ちが分かってくれる人もいて…。もう17年近くになりますが、やっていて良かった、と感じますね」。

午後から始まった診療。チェアに横たわった患者さんは全く無言であるが、先生は頬を軽くなぞながら、回りのスタッフと共に「〇〇ちゃん大丈夫だからね」「すぐ終わるから頑張ろうね」と声をかけている。血圧を計る人、足に静脈鎮静剤を打つ人。総がかりである。「ゴメンネ、ちょっと痛いけれど我慢してね」まさに神の手。聖職とは…。

外はまだ秩父おろしが吹いているが、こちらの心は——春のように暖かくなる。





待合室を地元のアーティストと 患者さんを結ぶ交流の場に提供する 和氣先生を訪ねて。

待合室にクリスマスツリーや紙芝居を創り母子の歯科相談に役立っている歯科医院は時々見るが、ギャラリーとして絵画や写真を置いて、芸術を通して患者さんとふれ合おうという医院は初めて…。

場所は田園都市線・青葉台駅より徒歩10分のテナントビルにご開業中の「みどり小児歯科」。小児歯科と標榜されているが、院長のお話しによると、小児が7割、成人が3割ということで午前中は一般歯科の患者さんも多い様子である。

今回は院長の趣味のご紹介ではないので、院長の他に主に飾られている作品の染色作家である西田陽子さん(院長のお姉様)と、(株)シラネ(歯科器材店)に務めつつ写真を撮り、数々の賞を受賞された横浜営業所課長代理・深谷昌秀氏を交えて、出品の動機や感想をお聞きした。

——待合室をギャラリーとしても使われようと思われた動機は?「診療所の移転にあたって、姉が長年勉強していた手描き更紗(さらさ)の、“不死鳥”をモチーフにした作品をプレ



みどり小児歯科

横浜市青葉区桜台2-2

院長 和氣裕之

ゼントしてくれたので、待合室に飾っておいたんです。それを見た患者さんの中で芸術に造詣の深い方々から評判がとてもよかったので、この空間を、地元のアーティストに開放し、医療と芸術の交流の場にしたら、もっとたのしい待合室になるのではないかと…。テレビやビデオはどの医院でもありますが、不安感一杯の患者さんの心がより安らぐもので、うち独自の何かがないかと思っていた時、姉の発案があり、それは良いと(笑)。患者さんに

は好評のようです」。

——めずらしい試みですが、飾られる西田さんのご感想は?「武蔵野美術大学を卒業したんですが、卒後は出版の仕事に就いて、その後は結婚、子育てと続き、美術とは緑遠い世界を歩いていたんです。が、娘も高校生になりここに来て長年温めてきたものを実現しようと考えました。手描き更紗は昔からある技法ですが、インドやアジアの感覚をとり入れて自分なりにアレンジした作品を、一つ一つ作っています。青葉台は文化や芸術を愛する人達がさまざまなサークルをつくっており、プロやアマチュア一流の作家やアーティストの方も多勢いらっしゃるのですが、その割には発表の場が少ないことを知りました。そこでこのスペースを活用して頂き、アーティストの励みの一端になればと思い立ちました。でも通常のギャラリーのように作品を売るのはではなく、多くの人に鑑賞し





て頂き交流の場として利用して貰えればと考えています。過日“婦人画報”に一部紹介されて、反響がありましたので、これからのたのしみです」。

——色々な賞に入賞経験がある深谷さんの

ご意見は？「7～8年前から土・日を利用して撮った作品が賞に入ったりして…。歯科医院は怖い、痛いというイメージがありますから、そうした方々が待っている間に作品を見て、少しでも明るい気持ちになればと…。私の写真が多くの人達に見て貰えると思うと、これからの作品にも力が入りますし、自分自身の励みにもなりますね。これまでは主に自分の感動した風景を撮ってきましたが、見る人の心がやすまるような写真をテーマに、被写体を広げていこうと思っています。しかしあくまで写真は余暇の趣味として。本業あつての私ですから、仕事はしっかりやっております。これ書いて下さいよ(笑)」。



院長は日本大学松戸歯学部を昭和53年に卒業。卒後は東京医科歯科大学口腔外科学教室で学び、現在も同教室で顎関節症

と心身医学の研究と臨床を続けているという努力家。医科歯科大卒の奥様を含め、小児歯科、矯正科、口腔外科等の専門のドクター8人が交替制で診療をされておられる。

診療室内にはスマイリーN3台、ノーベル2台、GM1台の計6台がフル回転している。口腔外科を長年勉強されているだけあつて患者さんの全身管理にも力を入れており、ユニットの傍らには自動血圧監視装置や、また小児

の外傷や小手術症例も多いため、手術専用の特殊无影灯などが設置されている。院長や西田さんがおっしゃる通り、とかく憂うつな気分になりやすい医院に行つて芸術作品を鑑賞出来ることは、患者サイドから見れば素晴らしいことである。医療はArt.Science&Heartといわれているが、さらに芸術のArtが加わり、新しい医院の在り方として患者さんにも注目を浴びることであろう。



ス タ ッ フ 紹 介

曾山歯科医院

鹿児島市東千石町15-13
曾山歯科ビル

院長 曾山幸一



歯科技工士

川畑和也さん(38才)

川原敏洋さん(36才)

瀬戸 徹さん(28才)

札幌の薄野、金沢は香林坊、広島八丁堀とくれば、鹿児島は何といっても天文館。この代表的な繁華街の真ん中の持ちビル内で、昭和38年からご開業の曾山歯科医院。今年82才になられたご先代は、今でも毎日診療室にお出になり、共に年を重ねた患者さんの、歯についてはもちろん、ご家族の健康その他の相談ごとについて話されているという。まさにインフォームド・コンセントを地でゆく、豊かな体験に裏打ちされた、理想的な老後(失礼!)といえるのではあるまいか。

診療所はビルの4階。コルクの床に黒のソファ、幾何学状にガラス模様に入ったドアを押して室内に。室中央をキャビネットで分け、左右にユニットが3台づつ、3方から外光が入る明るい室内に設置されている。

院長は、昭和46年九州歯科大学をご卒業。卒後は九大の口腔外科で2年半。勤務医を同じく2年半ほど経験し、お父様のもとへ。不惑から知命に入られた脂に乗ったベテラン歯科医師である。

今号から当ページをアシスタント紹介から、ドクターと共に活躍されるコ・デンタル全体の紹介の頁として、<スタッフ紹介>に改称。お知らせして参ります。

まずは最初にご紹介するのは当院のベテラン技工士である川畑さん。昭和55年、鹿児島歯科学院専門学校技工士科を卒業後当院へ。技工士としてのたのしさと難しさを「顔かたちが皆さん違うように、口腔内も一つ

として同じ形のものはありません。又、使用する材料や材質も、それをどのような方に、どのように使うか。患者さんの要望に応え、いかに満足してもらえる補綴物を創るかが難しい反面、やりがいも感じます」。——それにしても18年。当院の良さは?「やはり患者さんと直に話しが出来、お互いのコミュニケーションが図れることですね。時には、模型と口腔内が微妙に違い、ズレが生じますが、そんな場合でも、患者さんの感触を聞きながら、そうした箇所をチェック出来ます。又、来院回数を重ねますと、患者さんも気軽にこの室に来て、補綴物の色や材質等相談して来ます。入った当初は1人でしたから色々悩みましたが、今は3人。お互いに教えたり、教えられたりでたのしいですね。」「でも長く勤められた条件の中で最も良かったのは、院長が寛大であったことかな。研修会にもどんどん行かせてもらえるし、その成果を自由に発揮出来る場を提供してくれますから…。恵まれていると思っています。」「今思いますと、やはり卒業後入った医院の環境が後々の技工士の力を大きく左右しますから、これから就職される方はその点を重視されるのが大切だと思いますね」。ベテランらしい落ち着いたお話である。

川原さんも川畑さんと同じ学校卒の同窓生。この道に入った動機は「祖父が歯科医でしたから、小さな頃からこの職業があることは知っていました。転勤があるから会社づつめはイヤだし、もともと何か物を作ったり、壊したりするのが好きだったことから、それなら、と技工士の道に入りました。ですから今はたのしいですよ(笑)」。この医院の良いところは、やっぱり患者さんと直接話し出来ることですね。補綴物について患者さんの悩みを聞いたり、アドバイスをしたり、自分の経験を直



接活かすことが出来ます」。——ドクターになる気は? 「どこに価値感を見い出すかはそれぞれ違いますが、私の場合は、言い方はちょっとまずいかな。正直言いますと、ドクターより責任感が少なくすむでしょ(笑)。院長は経営を含め医院全体を考えていかなければならない。その点技工士は少々気楽、私は好きです(笑)。「学校を卒業後、5年間祖父の医院で働いておりましたが、身内同士ですから、どうしても甘えが出てしまって…。何か自分が流され、落ちてゆくように感じました。求人を見て当院に来たんですが、良い環境で、いつの間にか10年以上たってしまいました。でも最終的には、やはり本人のやる気でしょうね。目と手が動く限りは一生続けたいですね」とキッパリ。ご自身の性格と職業の内容の深さを見据えた…。やはりベテランである。

瀬戸さんもお2人の先輩と同じ学校の卒業生。専門学校時代に当院にアルバイトに来て、そのままここに入ってしまった、と当院への就職の動機を。真面目で誠実な仕事ぶりが院長に認められたのであろう。——技工士を選ばれた動機は? 「高校卒業時パンフレットを見

てこの道を選びましたが、実際はどんな仕事をどのようにやるのか、ほとんど知らなかったんですよ(笑)。話すことは昔からあまり得意じゃあないから、営業などには向かないし…。技工士も最初の2~3年は全く仕事にならなく



<院長から一言>

私達が学校を卒業した24~25年前は、どちらかと言えば歯科医に比べ、世間的にはマイナーな職業と思われていたのが正直なところでしょうが、今は全く違います。当院のモットーは“患者さんの立場に立って考える”ということですので、担当

で、先輩に教わり教わり、8年目でやっと近頃出来るようになったかな、という感じです(笑)。——この職業の難しいところとたのしいところは? 「ポーセレン一つをとっても材料の配合から温度まで、ちょっとしたことで違って来ますから、気を使う職業ですが、それだけに歯に対してシビアな患者さんから、良い補綴物を作ってくれたと喜ばれた時はうれしいし、この仕事に就いて良かったな、と思いますね。「嫌だった最初の2~3年からやっと歯の形がとれるようになり、技工士として生きる最初の峠を乗り越えられたかな、と言う感じです(笑)。「先輩が言われるように、どこまで行ってもキリがない職業ですが、続けて行きたいと今では思っています」と微妙にゆれ動く20代の気持ちを正直に。

高齢化を迎えた社会の中にあつて。歯科医院を支える大切な屋台骨である。

するスタッフ全員が患者さんの意見や希望を聞くようにしております。そのため当然、補綴物を創る技工士もその一員ですから話しに加わります。又、そうした会話が技工士のやる気を引き出し、一方患者さんには歯科技工士という職業の認識を深めることにつながって行くのではないかと思います。一時、せっかく技工士の免許を取っても給料や労働時間、地位の不安定などで転業する人が多いと言われていましたが、今後は労働条件や環境も整い、転・廃業は少なくなっていくのではないかと思います。又一方、技工士自身も噛むことから生体に与える影響・調和まで考えた巾広い知識・勉強が必要になっている時代を迎えていると思います。お陰様で当院の補綴物の評判も良く、私自身も感謝しております。

切削粉等、顔に飛ぶものを総て吸い込んでくれる
 一度使うともう離せませんね。

診療室訪問シリーズ

吉海歯科

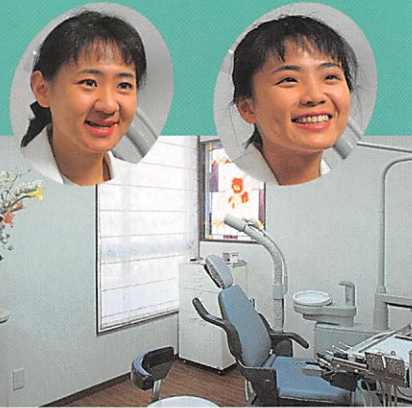
東京都江戸川区江戸川3-31-31

院長 朝比奈祐将
 (日本歯科大学卒・67才)



土井美麻子
 (旧姓・朝比奈、日本歯科大学卒)

朝比奈利早子
 (日本大学歯学部卒)



都 心を貫く地下鉄・都営新宿線が開通してか
 らめざましく発展した江戸川区海浜部。
 一之江駅から車で4〜5分の「吉海歯科」の周辺も
 大小のマンションや新しい住宅街にこの数年で大変
 貌を遂げた様子である。

診療室はラン科の花や花柄のロールカーテン、ス
 テンドグラスなど、女医さんが主体に診療される
 医院らしく、温かくやさしい雰囲気がか漂う。

院長は卒後京成電鉄病院に3年半ほど勤務さ
 れた後ご開業。以来30年以上、ご紹介のお2人
 のお嬢様も経験を積み、現在は3人で診療に当た
 っておられるようで、羨ましい程の環境下にある。
 「当家は父も兄妹4人も皆歯科医で…。特別勤め
 たわけでもないんですが、カエルの子はカエル、と云
 うんですか(笑)、歯医者になりました…。今では
 私は隠居同然(笑)。改築も院内雰囲気も総て娘
 達にまかせてあります」。

変わって院内を取り仕切るのがお2人のお嬢様。
 姉の美麻子先生は卒後慈恵医大病院歯科に2年
 半勤務された後当院へ。日々の診療で心掛けて
 いることは「初心を忘れず、常に患者さんの立場に
 立つて、ベストな診療を行えたらと思っています」。
 妹の利早子先生は卒後同大の補綴科で主にクラ
 ウンブリッジを3年余勉強後実家である当院へ。
 「父が30年以上、その後姉が加わり共に患者さん
 に親しまれて診療を行ってききましたので、その雰
 囲気を大切に、と、患者さんとの対応に一番気をつ
 けております」。テキパキと、女医さん姉妹での診
 療は患者さんには好評のようで、激戦地にあつて患
 者数も多いようだ。

◇ 4台並んだユニット。最新のファインGMにはそれ
 ぞれフレクシークリーンエアースystemVが。「最
 初はチョット音がうるさいと感じましたが、使うと
 切削粉等、顔に飛ぶものが総て吸い込まれ…。一
 度使うともう離せませんね」とお2人揃って、うれ
 しい感想である。



F.C.A.S.

内蔵式口腔外バキューム

オサダ フレクシー クリーンエアースystem

¥386,000(工場オプション)※消費税別途
 ※ブロー、エアージャッターは別途

※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、
 本社お客様センター係宛にハガキでご請求下さい。

まだ総ての機能を使い切っていないので、
 初めに最高級のユニットを設置すれば
 後悔しない、と決めました。
 ▲フラインGMDV、期待しております。

診療室訪問シリーズ

北村歯科医院

東京都品川区西大井5-3-4

院長 北村房子

(旧姓・村井、日本女子歯科医専卒)

副院長 北村敦子

(昭和大学歯学部卒)



地

下鉄・馬込駅から5〜6分。少々入りくんだ路地の静かな住宅街に建つ「北村歯科医院」。決して広い診療所ではないが、殺菌灯入りのスリッパ収納器、サーモンピンクのレザーの椅子やユニット。診療台の前に置かれた胡蝶蘭やシクラメンの花々等、女医さんが診療される医院らしい行き届いた気配りと暖かさが伝わってくる。

院長は昭和24年に卒業後、東歯大で3〜4年研修を積み、その後ご実家のお父様と共に15年余り診療生活を。昭和46年現在地に独立された。副院長を勤める敦子先生は、卒業後進会・宮田歯科で勤務医を4年ほど経験。昨年11月お母様のもとへ戻られ、母娘で診療生活のスタートを切られた、とのこと。「医療は決して手が抜けない職業ですし、女性はその家事や育児が加わりますから、大変な職業だと思います。」が、「そもそも仕事とは厳しいものと自覚しておりますから、ふり返つても歯科医になつて良かったな、と思いますね。一時はもう歳だと患者さんへ減らして来たのですが、娘が共にやってくれ」と言ってくれまして…。もうひと頑張り、というわけです(笑)。院長に変わつて医院を取り仕切る敦子先生。方針は「宮田先生の方針——治療はゆつくり丁寧。患者さんによく説明し、理解を得てからお互いに納得のいく診療をすること。1日2人で14〜15人ですが、今後もこの方針を貫いてやって行きたいと思っています」。ご子息徹氏(神奈川県立大学卒)は現在大田区・山王で開業中。今日は休診日にあたり、共に写真に入つて頂いた。そちらもフラインGMDVをお使い頂いている、とうれしいお話。

まだ購入したばかりで総ての機能を使い切っていないんですが、長く使うものですから、初めに最高級なものを設置すれば、と決心しました。暖かく、やさしいイメージも好きだったし、これから本当の良さを発揮してくれると期待しております。

OSADA
 Fine
 GMD
 L233LL



製造承認番号03B第0326号

※資料ご希望の方は、商品名、掲載誌名を明記の上、本社お客様センター係宛に八ガキでご請求下さい。